



平成28年度活動報告会  
(平成29年5月26日)



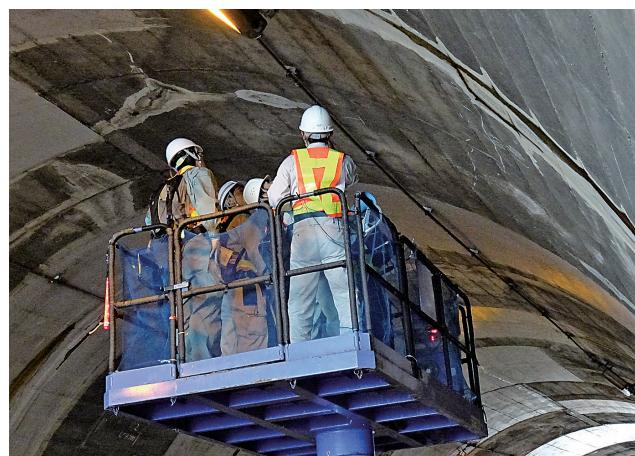
九州北部豪雨災害の調査速報会  
(平成29年7月11日)



九州北部豪雨災害調査第2回速報会  
(平成29年7月20日)



九州北部豪雨災害現場  
(平成29年7月)



社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座  
【前半】平成29年10月19日～25日  
【中間】平成29年11月1日、11月2日  
【後半】平成29年11月6日～10日



防災士養成講座  
【第1回】平成29年8月19日～20日  
【第2回】平成29年8月21日～22日  
【第3回】平成29年10月14日～15日



社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座  
シンポジウム：地域ニーズに応えるインフラ再  
生技術者の育成（平成30年1月12日）

松山アーバンデザインセンター  
「くつしたまいれ」in みんなのひろば  
(平成29年11月23日)



松山アーバンデザインセンター  
「移動する建築」お披露目会  
『街の中の雲』  
(平成30年3月18日)



松山アーバンデザインセンター  
「移動する建築」お披露目会  
『まちを旅する4つの屋台』  
(平成30年3月18日)

## 序　文

愛媛大学防災情報研究センターが平成 18 年 4 月 1 日に設立されて以来、11 年が経過しました。センター設立以来、日本の災害史に残るような大きな災害が発生しています。東日本大震災（平成 23 年 1 月）では東北の太平洋沿岸を巨大な津波が襲い、死者・行方不明者併せて 2 万人に近い方が犠牲となりました。同年 9 月には台風 12 号による紀伊水害が発生しましたし、平成 25 年には台風 26 号によって伊豆大島で土石流が発生し 39 人の死者行方不明者がいました。平成 26 年 8 月には広島市で土石流災害、平成 27 年には鬼怒川が決壊、平成 29 年 7 月に発生した九州北部豪雨では多くの土砂崩れが発生し流木が川の流れをせき止めました。東北や北海道にも台風が襲来するなど、近年経験しなかったような気象災害が頻発化しています。この他にも、平成 26 年の山梨豪雪、同年の御嶽山噴火（登山客など 57 人が犠牲）、平成 28 年の熊本地震など、深刻な災害が多く発生しています。来る南海トラフ巨大地震は、四国に巨大津波と強い地震動をもたらすことが予想されおり警戒が必要です。

また、我々が晒されているのは自然災害だけではありません。経済成長とともに道路を中心とした多くの社会基盤の整備がなされてきましたが、近年これらの構造物の老朽化が深刻な状況となっています。平成 22 年には笹子トンネルの天井板が落下し、走行していた車両が巻き込まれて 9 名の方が犠牲になりました。アメリカでも、今から 10 年ほど前に高速道路の橋が崩落し、15 名の死者・行方不明者がいる惨事が起っています。私たちの身の回りにある橋やトンネルでも、同様のことが起きる可能性がありますし、上下水道や港湾施設、河川堤防なども同じように老朽化が進んでいます。地震や豪雨などの発生時に、これらの構造物が壊れやすくなることも考えられ、そうすると被害が大きくなったり、災害時の支援ルートとして使えなくなったり、その後の復旧・復興を遅らせることになります。

愛媛大学防災情報研究センターでは、予想される様々な災害から住民の生命と財産を守るために、行政や地域と連携した極めて実践的な防災研究に取り組んでいます。平成 21 年 10 月から平成 26 年 3 月まで四国建設弘済会による「東南海・南海地震研究部門」を、平成 26 年 4 月から松山市(松山市都市再生協議会)による「松山アーバンデザイン研究部門」を設置しました。これらの寄附講座の活動により、愛媛県及び四国地域の南海トラフ巨大地震への対応や、松山市の中心市街地や道後温泉の活性化への取り組みに、大いなる成果を上げています。また、防災に関わる人材育成への取り組みとしては、以下のようなプログラムを開講しています。まず、平成 25 年度から文部科学省の「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」に「地域ニーズに応えるインフラ再生技術者育成のためのカリキュラム設計」が採択され、毎年 20 名を超えるメンテナンスエキスパート技術者(ME)を輩出しています。それとともに、平成 26 年度から地域防災力向上のリーダーの育成にも組織的に取り組んでおり、松山市消防局と連携した防災士養成講座では、毎年 400 名の防災士を育成しています。また、松山市内 4 大学の学生を対象とした実践的学生防災リーダー育成プログラムでは、平成 27 年度から毎年 200 名の学生防災士を養成しています。さらに、アジア圏の災害調査や防災研究連携にも力を入れてきました。平成 27 年に発生したネパール・ゴルカ地震の被害調査を精力的に進め、この調査研究推進のために、関係機関・諸氏から多くの賛助寄付金をいただいています。その寄付金によりカトマンズ市に地震復興に向けた学術拠点である「愛媛大学ネパール地震復興デザインセンター」を開設しています。

以上、述べてきたように、日本は大規模自然災害の多発期にあります。そのため、今ま

で以上に防災への真剣な取り組みが求められます。愛媛大学防災情報研究センターも微力ながら地域防災力向上のために活動していきます。本報告書には、昨年1年間の活動成果をまとめしておりますので、本センターの活動の理解を深める一助となれば幸いです。災害に立ち向かうためには、多くの機関や個人の力の結集が必要です。皆様の熱い支援と協力をお願いします。

平成30年5月25日

愛媛大学防災情報研究センター長 森脇 亮

## 愛媛大学防災情報研究センター年報 目次

### 序文

### 目次

1. 研究組織及び研究スタッフ	1
2. 活動状況	
2.1 平成 28 年度活動報告会	9
2.2 災害現地調査・調査報告会	11
2.3 四国防災八十八話研究会	13
2.4 アーバンデザイン研究部門	14
2.5 防災士養成講座	22
2.6 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座	24
2.7 防災情報研究センターニュース（メールマガジン）	39
3. センターが受け入れた研究活動	
3.1 受託研究	40
3.2 受託事業	40
3.3 共同研究	41
3.4 寄附金	41
4. センター教員による研究・地域貢献活動	42
5. 管理・運営	
5.1 運営委員会議事録	68
5.2 外部評価委員会議事録	72
6. 規程等	
6.1 愛媛大学防災情報研究センター規則	74
6.2 愛媛大学防災情報研究センター運営委員会規程	77
6.3 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程	79
6.4 愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要項	80



## 1. 研究組織及び研究スタッフ

センター長、副センター長のもとに、5つの研究部門（災害救急医療・ケア研究部門、地域防災システム研究部門、アジア・地域防災情報ネットワーク部門、アーバンデザイン研究部門、防災・橋梁メンテナンス技術研究部門）を置く。下記に、平成29年度の研究スタッフを示す。センター長、副センター長の他、センター所属の教員が29名、客員教授・准教授が10名、客員研究員が3名、及びセンター活動を支援していただく協力教員4名で構成されている。

### センター長

氏名	森脇 亮 [MORIWAKI Ryo]
所属	大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職	教授
専門	気象学・水文学
最終学歴	1996.3 東京工業大学工学部土木工学科 卒業

### 副センター長

氏名	吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]
所属	大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職	教授
専門	交通工学
最終学歴	1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏名	二神 透 [FUTAGAMI Tohru]
所属	防災情報研究センター
役職	准教授
専門	都市防災計画、地震火災シミュレータ、避難シミュレータ、救急情報工学、土木計画学、中山間地防災計画、住民参加、合意形成
最終学歴	1990.3 金沢大学大学院自然科学研究科システム科学博士課程 修了

氏名	バンダリ ネトラ プラカシュ [BHANDARY Netra Prakash]
所属	社会共創学部
役職	准教授
専門	地盤防災
最終学歴	2003.3 愛媛大学大学院理工学研究科生産工学博士後期課程 修了

### <災害救急医療・ケア研究部門>

地域の関係機関との連携を考慮した災害発生時の救急医療・ヘルスケア体制及び搬送支援体制の構築・情報共有に関する調査・研究を行い、心的ケアを含む実践的な災害医療の教材を開発する。

#### **部門長**

氏名	相引 真幸 [AIBIKI Mayuki]
所属	大学院医学系研究科医学専攻
役職	教授、附属病院副病院長（医療再生・災害危機管理担当）
専門	救急医学、重症患者管理学
最終学歴	1978.3 金沢医科大学医学部医学科 卒業

氏名	木村 映善 [KIMURA Eizen]
所属	大学院医学系研究科医学専攻
役職	准教授
専門	医療情報学、医療社会学、看護情報学、医用工学
最終学歴	2003.3 愛媛大学大学院医学研究科生体機能博士課程 修了

氏名	加藤 匡宏 [KATO Tadahiro]
所属	大学院教育学研究科学校臨床心理専攻
役職	准教授
専門	産業保健領域における人間工学の視点からみた労働安全器具の開発および安全、安心町づくり
最終学歴	1990.3 広島大学大学院医学系研究科社会医学系博士課程 修了

### <地域防災システム研究部門>

自然災害発生のメカニズムや対策技術を研究し、発生した災害実態や気象・地質・構築物などの地域特性を調査する。それらの調査・研究を通して得られた知見・知識を蓄積する。

#### **部門長**

氏名	二神 透 [FUTAGAMI Tohru]
所属	防災情報研究センター
役職	准教授
専門	都市防災計画、地震火災シミュレータ、避難シミュレータ、救急情報工学、土木計画学、中山間地防災計画、住民参加、合意形成
最終学歴	1990.3 金沢大学大学院自然科学研究科システム科学博士課程 修了

氏名 吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 交通工学  
最終学歴 1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏名 氏家 眞 [UJIKE Isao]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 コンクリート工学  
最終学歴 1981.3 広島大学工学部土木工学課程 修了

氏名 日向 博文 [HINATA Hirofumi]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 沿岸海洋物理学, 海岸工学  
最終学歴 1991.3 東京工業大学理工学研究科土木工学専攻 修了

氏名 小林 範之 [KOBAYASHI Noriyuki]  
所属 農学部生物資源学科  
役職 教授  
専門 地盤工学  
最終学歴 1991.3 京都大学大学院農学研究科農業工学修士課程 修了

氏名 森 伸一郎 [MORI Shinichiro]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 准教授  
専門 地震工学, 地震地盤工学, 防災工学  
最終学歴 1980.3 京都大学工学部土木工学科 卒業

氏名 都築 伸二 [TSUZUKI Shinji]  
所属 大学院理工学研究科電子情報工学専攻通信システム工学  
役職 准教授  
専門 通信工学  
最終学歴 1985.3 愛媛大学大学院工学研究科修士課程 修了

氏名 門田 章宏 [KADOTA Akihiro]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 准教授  
専門 河川工学  
最終学歴 1997.3 京都大学大学院工学研究科博士課程環境地球工学専攻 単位取得認定退学

#### <アジア・地域防災情報ネットワーク部門>

地域の視点からの防災・災害対応に関する自然科学・人文社会面の教材の開発、災害時のライフラインや医療に関する基盤情報ネットワーク構築に関する調査・研究を行う。その成果を用いて地域の教育・啓蒙を行い、さらにアジア各地域に重点的に展開する。

#### 部門長

氏名 榊原 正幸 [SAKAKIBARA Masayuki]  
所属 社会共創学部  
役職 教授  
専門 地球環境学、地質学、岩石学、応用地球科学  
最終学歴 1987.9 北海道大学大学院理学研究科地質学鉱物学博士後期課程 修了

氏名 岡村 未対 [OKAMURA Mitsu]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 地盤工学  
最終学歴 1993.3 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学博士課程 修了

氏名 バンダリ ネトラ プラカシュ [BHANDARY Netra Prakash]  
所属 社会共創学部  
役職 准教授  
専門 地盤防災  
最終学歴 2003.3 愛媛大学大学院理工学研究科生産工学博士後期課程 修了

#### <アーバンデザイン研究部門>

公・民・学が連携して、都市デザインとまちづくりに関する調査研究から実践、さらには学習・教育を行い、まちづくりの担い手を育成する。

#### 部門長

氏名 松村 輝彦 [MATSUMURA Nobuhiko]  
所属 社会共創学部  
役職 教授  
専門 地域デザイン  
最終学歴 1995.3 大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻博士後期課程 中退

氏名 千代田 憲子 [CHIYODA Noriko]  
所属 教育学部  
役職 教授  
専門 デザイン, パブリックデザイン(街路景観), テキスタイル造形  
最終学歴 2003.3 九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科生活環境専攻博士後期課程 修了

氏名 柳原 阜 [YANAGIHARA Takashi]  
所属 防災情報研究センター  
役職 教授  
専門 まちづくり  
最終学歴 1979.3 山梨大学工学部環境整備工学科 卒業

氏名 羽鳥 剛史 [HATORI Tsuyoshi]  
所属 社会共創学部  
役職 准教授  
専門 社会マネジメント  
最終学歴 2006.3 京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻博士課程 修了

氏名 小野 悠 [ONO Hruka]  
所属 防災情報研究センター  
役職 助教  
専門 都市計画  
最終学歴 2016.3 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程 修了

氏名 尾崎 信 [OSAKI Shin]  
所属 防災情報研究センター  
役職 講師  
専門 都市・地域計画, 景観学, まちづくり  
最終学歴 2005.3 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻修士課程 修了

氏名 片岡 由香 [KATAOKA Yuka]  
所属 社会共創学部  
役職 助教  
専門 景観デザイン  
最終学歴 2013.3 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士後期課程 修了

### <防災・橋梁メンテナンス技術研究部門>

橋梁の健全度調査法の開発や橋梁架設などの防災対策技術の開発に取り組み、それらの技術を日本やアジアに広く展開する。

#### 部門長

氏名 矢田部 龍一 [YATABE Ryuichi]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 地盤工学  
最終学歴 1979.3 京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏名 楠本 雅博 [KUSUMOTO Masahiro]  
所属 防災情報研究センター  
役職 教授  
専門 橋梁工学・メンテナンス工学  
最終学歴 1987.3 徳島大学大学院電子工学専攻課程 修了

氏名 全 邦釤 [CHUN Pang-jol]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 准教授  
専門 橋梁工学・維持管理工学・構造力学・鋼構造学・画像解析学  
最終学歴 2010.5 Wayne State University, Graduate School, Department of Civil and Environmental Engineering 博士課程 修了

氏名 大窪 和明 [OOKUBO Kazuaki]  
所属 防災情報研究センター  
役職 准教授  
専門 土木計画  
最終学歴 2009.3 東北大学大学院情報科学研究科博士課程後期 修了

氏名 安原 英明 [YASUHARA Hideaki]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 岩盤工学、地盤工学  
最終学歴 2005.10 ペンシルベニア州立大学  
Dpt. Energy and Geo-Environmental Engineering

氏名 木下 尚樹 [KINOSHITA Naoki]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 講師  
専門 岩盤工学  
最終学歴 1990.3 愛媛大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏名 山本 浩司 [YAMAMOTO Kouji]  
所属 防災情報研究センター  
役職 教授  
専門 地盤情報工学  
最終学歴 2006.3 愛媛大学大学院理工学研究科博士課程生産工学専攻 修了

【客員教授】

氏名 高橋 治郎 [TAKAHASHI Jiro]  
所属 防災情報研究センター 教授  
専門 構造地質, 防災地質

氏名 羽藤 英二 [HATO Eiji]  
所属 東京大学大学院工学研究科 教授  
専門 交通工学, 都市空間工学, 都市交通計画, 風景づくり

氏名 鳥居 謙一 [TORII Kenichi]  
所属 国立研究開発法人土木研究所 研究調整監  
専門 海岸工学, 防災工学

氏名 右城 猛 [USHIRO Takeshi]  
所属 株式会社第一コンサルタンツ 代表取締役社長  
専門擁壁設計, 落石対策

氏名 NEPAL MADHAV KUMAR  
所属 ネパール国国会議員  
専門 防災行政, 環境問題, 地球温暖化問題

氏名 TULADHAR GANGALAL  
所属 ヒマラヤ保全会 会長  
専門 防災教育, ヒマラヤ環境学, 開発政治学

氏名 曲田 清維 [MAGATA Kiyotada]  
所属 防災情報研究センター  
専門 住居学, 建築計画, 都市計画

氏名 松本 啓治 [MATSUMOTO Keiji]

所属 防災情報研究センター

専門 まちづくり

氏名 西村 正 [NISHIMURA tadashi]

所属 復建調査設計株式会社 経営管理本部 社会デザイン創発センター 理事

専門 まちづくり, 社会実験調査

【客員准教授】

氏名 DAHAL KUMAR RANJAN

所属 ネパール国立トリブバン大学 准教授

専門 応用地質学, 防災地質学

【客員研究員】

氏名 石飛 直彦

所属 復建調査設計株式会社 松山支店 技術課長

専門 まちづくり, 社会実験調査

氏名 泉谷 昇

所属 NPO 法人いよココロザシ大学 理事長・学長

専門 まちづくり, 社会実験調査

氏名 浅子 佳英

所属 タカバンスタジオ

専門 まちづくり, 社会実験調査

【協力教員】

法文学部 : 寺内 浩 (協力分野: 古文書調査, 歴史研究)

理工学研究科 : 小林 真也 (協力分野: 災害時の情報伝達)

理工学研究科 : 井内 國光 (協力分野: 渇水被害, 水資源システム, 地球温暖化, 地盤沈下,  
土壤・地盤・水汚染, 災害発生時の災害調査と情報提供)

理工学研究科 : 倉内 慎也 (協力分野: 防災計画)

## 2. 活動状況

### 2.1 平成 28 年度活動報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 29 年 5 月 26 日（金）15 時から愛媛大学総合情報メディアセンター・メディアホールにて、防災情報研究センター平成 28 年度活動報告会を開催しました。二神副センター長の司会のもと、約 50 名の方に参加いただき、今年度 4 月に就任された森脇センター長より就任の挨拶を兼ねた開会の挨拶で報告会が始まりました。この 10 年間に大きな災害が起こっており、四国及び愛媛でも災害に備えて、センターの役割をしっかりと果たしていきたいと述べました。さらに、センターのこれまでの活動内容の説明があり、関係各所へご協力のお願いがありました。

続いて、二神副センター長より「防災士養成講座と学生防災リーダー育成プロジェクト」と題し、28 年度の活動の報告及び 29 年度の防災士養成講座と実践的學生防災リーダー育成プロジェクトの要項を説明しました。続いて、スライドに沿って、防災リーダークラブが 28 年度どのような活動をしたか、地域とどのように関わって実践力を高めてきたかを説明しました。最後に今後の活動について説明しました。

引き続いて、森脇センター長から「ME 養成講座を活用した防災技術者の育成」と題して、「ME 養成講座」の歩み及び平成 28 年度の養成講座の内容を説明しました。また愛媛大学「四国社会基盤メンテナンスエキスパート」が国土交通省登録資格に認定されたことを紹介しました。さらに徳島大学にて開講した「橋梁メンテナンスエキスパート養成講座」の説明をしました。

次に、「社会の災害耐性を高める新技術の開発と運用」と題して、防災情報研究センターの全准教授の代理で森脇センター長が報告をしました。

最後に、防災情報研究センターの羽鳥准教授から「UDCM による公民学連携のまちづくり」と題して「創る」「学ぶ」「交わる」「知る」の観点から、それぞれの活動内容、取り組みの紹介をしました。

閉会にあたり二神副センター長から報告会の振り返りと、これから益々重要となる、防災、まちづくりに必要な人材育成に取り組んでいくことが示され、閉会となりました。

日 時：平成 29 年 5 月 26 日(金) 15:00～ (受付 14:30～)

場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター メディアホール

定 員：100 名

プロ グラム：

15:00 開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 森脇 亮

15:10 「防災士養成講座と学生防災リーダー育成プロジェクト」  
愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 二神 透

15:30 「ME 養成講座を活用した防災技術者の育成」  
愛媛大学防災情報研究センター長 森脇 亮

15:50 「社会の災害耐性を高める新技術の開発と運用」  
愛媛大学防災情報研究センター 准教授 全 邦釘

16:10 「UDCM による公民学連携のまちづくり」  
愛媛大学防災情報研究センター 准教授 羽鳥 剛史

16:30 閉会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 森脇 亮

(司会 愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 二神 透 )



森脇センター長の挨拶



社会共創学部の羽鳥准教授  
活動内容、取り組みの紹介

## 2.2 災害現地調査・調査報告会

### 2.2.1 平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害の調査速報会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 29 年 7 月 11 日（火）13 時から愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室にて、平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害の調査速報会を開催しました。同センターの森准教授の司会のもと、約 80 名の方に参加いただき、森脇センター長の開会の挨拶で速報会が始まりました。

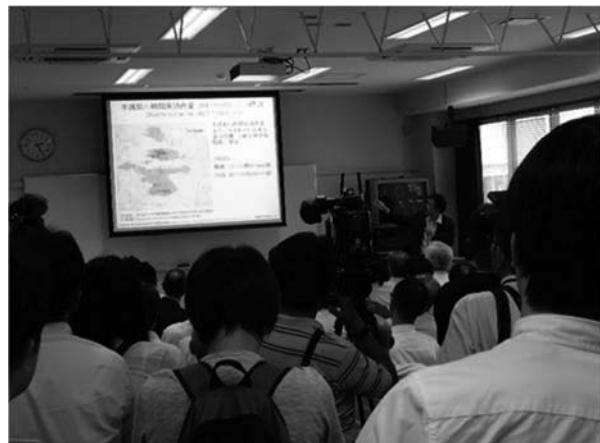
最初に、森脇センター長が「降雨と災害の概要および筑後川周辺の被害」と題して、被害の概要、調査団の概要、降雨と災害の概要の説明をしました。

続いて、愛媛県技術士会会員で（株）愛媛建設コンサルタントの吉岡崇氏より、「対象地域の地質と奈良谷川沿岸（ため池）の被害」、愛媛県技術士会会員で（株）ナイバの木村一成氏より「赤谷川沿岸の被害（多量堆積土被害）」、愛媛県技術士会会长で（株）愛媛建設コンサルタントの増田信氏より、「小野川沿岸の被害（斜面崩壊による河道閉塞）」と題して、各地域の調査概要及び、今後の課題について報告がありました。

最後に、森准教授が「桂川・花月川・一之瀬川・筑後川の構造物の被害」と題して被害の状況、課題の報告をしました。



森脇センター長の概要説明



森准教授の報告

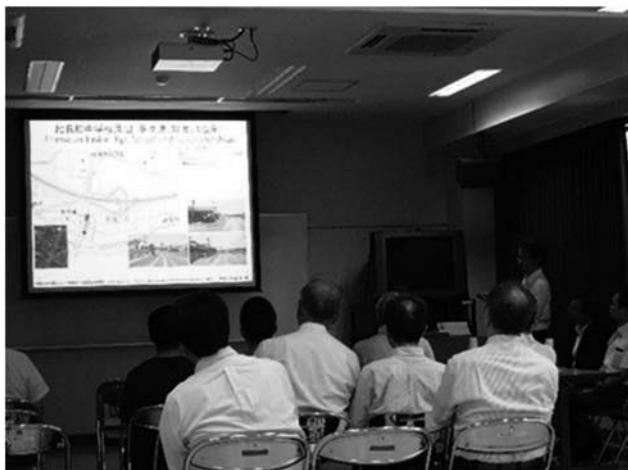
## 2.2.2 平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害調査第 2 回速報会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 29 年 7 月 20 日（木）13 時から愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室にて、平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害調査第 2 回速報会を開催しました。

ネトラ副センター長の司会のもと、約 20 名の方に参加いただき、まずは、豪雨災害で犠牲になった方々へ黙祷を捧げました。

初めに、森脇センター長の開会の挨拶で第 2 回速報会開催の趣旨を説明しました。

続いて、同センター森准教授より、「九州北部豪雨災害による筑後川支流における構造物の被害」と題して、第 1 回速報会より詳細な災害の状況、被害が拡大した要因、さらに災害に対する法律や事業の説明をしました。



森准教授の報告



会場風景

## 2.3 四国防災八十八話研究会

愛媛大学防災情報センターは、愛南町及び愛南町教育委員会と連携して、四国防災八十八話感想文コンクール表彰式及び作品発表会を、平成30年3月12日に御荘文化センターで開催しました。

厳正な審査の上、小学校の部では最優秀賞1編、優秀賞2編の3編が、中学校の部では最優秀賞1編、優秀賞2編の3編が表彰されました。受賞した児童生徒は、それぞれの作文を、保護者などの多くの参加者を前に堂々と発表しました。この子供たちが地域の将来を担う人材となり、地域防災の柱になってくれる日も近いことと期待されます。

平成29年度の入賞者は下記のとおりです。

最優秀賞	小学校の部	愛南町立城辺小学校	5年	浦川 隼
	中学校の部	愛南町立御荘中学校	2年	高橋 真衣
優秀賞	小学校の部	愛南町立中浦小学校	5年	中谷 優希
		愛南町立一本松小学校	5年	宮崎 泰二郎
	中学校の部	愛南町立内海中学校	1年	末廣 修一郎
		愛南町立城辺中学校	1年	本多 優奈

入賞作品は、(<http://cdmir.jp/download/>)にアップしています。

## 2.4 アーバンデザイン研究部門

愛媛大学防災情報研究センターでは、松山市都市再生協議会からの寄附を受けて「アーバンデザイン研究部門」を設置しました。29年度の主な活動は、下記のとおりです。詳しくは、別冊「松山アーバンデザインセンター29年度年報」をご覧ください。

※「松山アーバンデザインセンター29年度年報」については、防災情報研究センターまでお問合せください。

- 2017.04.04 : 第9回都市再生協議会
- 2017.04.05 : 第104回「まち@ラヂ」放送
- 2017.04.12 : 第105回「まち@ラヂ」放送
- 2017.04.14 : 産経新聞ミュージアムカフェ
- 2017.04.16 : お城下マルシェ
- 2017.04.18 : 編集ワークショップ
- 2017.04.19 : ハッピー絵本ライブ
- 2017.04.19 : 第106回「まち@ラヂ」放送
- 2017.04.22 : 星空散歩
- 2017.04.24 : 湿町三丁目C街区地区市街地再開発組合設立総会
- 2017.04.24 : 第2回街なか再生サポーター会議
- 2017.04.26 : 第107回「まち@ラヂ」放送
- 2017.04.26 : 第28回社会実験運営委員会
- 2017.05.01-10.31 : ヘチマのグリーンカーテン
- 2017.05.03 : 第108回「まち@ラヂ」放送
- 2017.05.09 : 第25回UDCM運営会議
- 2017.05.09 : 編集ワークショップ
- 2017.05.10 : ハッピー絵本ライブ
- 2017.05.10 : 第109回「まち@ラヂ」放送
- 2017.05.12 : 松山アーバンデザインスクール(3期,事前説明会)
- 2017.05.17 : 第110回「まち@ラヂ」放送
- 2017.05.18 : UDCM出入口脇通行量・交通量調査
- 2017.05.19 : 松山アーバンデザインスクール(3期,第1回)
- 2017.05.21 : UDCM出入口脇通行量・交通量調査
- 2017.05.21 : お城下マルシェ
- 2017.05.22 : もぶるんるん♪オトナのダイエット
- 2017.05.23 : 編集ワークショップ
- 2017.05.24 : 第111回「まち@ラヂ」放送
- 2017.05.24 : 大人の絵本講座
- 2017.05.26 : 東温アーバンデザインスクール(2期,第1回)
- 2017.05.27 : 松山アーバンデザインスクール(3期,第2回)
- 2017.05.30 : 第3回街なか再生サポーター会議
- 2017.05.31 : 第29回社会実験運営委員会
- 2017.05.31 : 第112回「まち@ラヂ」放送
- 2017.06.02 : 道後温泉活性化懇談会
- 2017.06.02 : 松山アーバンデザインスクール(3期,第3回)
- 2017.06.04 : もぶるんるん♪オトナのダイエット

2017.06.06 : 第 26 回 UDCM 運営会議  
2017.06.06 : 編集ワークショップ  
2017.06.07 : ハッピー絵本ライブ  
2017.06.07 : 第 113 回「まち@ラヂ」放送  
2017.06.08 : 東温アーバンデザインスクール (2 期, 第 2 回)  
2017.06.09 : 松山アーバンデザインスクール (3 期, 第 4 回)  
2017.06.11 : もぶるんるん♪オトナのダイエット  
2017.06.14 : 第 114 回「まち@ラヂ」放送  
2017.06.15 : モバイル屋台プロジェクト「もぶるドリンク開発ワークショップ」  
2017.06.16 : 松山アーバンデザインスクール (3 期, 第 5 回)  
2017.06.18 : お城下マルシェ  
2017.06.20 : 編集ワークショップ  
2017.06.20 : もぶるマガジン vol.4 刊行  
2017.06.21 : 大人の絵本講座  
2017.06.21 : 第 115 回「まち@ラヂ」放送  
2017.06.24 : MOBURU LIVE STUDIO  
2017.06.24 : 夏だ！ 海だ！ あ、 噴水だ！  
2017.06.25 : もぶるんるん♪オトナのダイエット  
2017.06.27 : 第 4 回街なか再生サポーター会議  
2017.06.28 : 第 30 回社会実験運営委員会  
2017.06.28 : 第 116 回「まち@ラヂ」放送  
2017.06.29 : 東温アーバンデザインスクール (2 期, 第 3 回)  
2017.06.30 : 松山アーバンデザインスクール (3 期, 第 6 回)  
2017.06.30 : 松山アーバンデザインスクール (3 期, かやまちクラブ夜市へ参加)  
2017.07.01 : 星空散歩  
2017.07.01 : モバイル屋台プロジェクト「土曜夜市」出店  
2017.07.01 : 週末はまちなかで子育てをまなぶ vol.2  
2017.07.02 : たけちゃんの Art Craft 教室  
2017.07.04 : 編集ワークショップ  
2017.07.05 : 第 117 回「まち@ラヂ」放送  
2017.07.06 : 東温アーバンデザインスクール (2 期, 第 4 回)  
2017.07.07 : 産経新聞ミュージアムカフェ  
2017.07.07 : 道後ホテル建て替えデザイン協議  
2017.07.08 : モバイル屋台プロジェクト「土曜夜市」出店  
2017.07.08 : たけちゃんの Art Craft 教室  
2017.07.09 : MOBURU LIVE STUDIO  
2017.07.10 : 第 1 回道後温泉観光会館再整備検討委員会  
2017.07.12 : ハッピー絵本ライブ  
2017.07.12 : 第 118 回「まち@ラヂ」放送  
2017.07.13 : 第 27 回 UDCM 運営会議  
2017.07.14 : 松山アーバンデザインスクール (3 期, 第 7 回)  
2017.07.15 : モバイル屋台プロジェクト「土曜夜市」出店  
2017.07.16 : UDCM 出入口脇通行量・交通量調査  
2017.07.16 : 星空散歩  
2017.07.16 : もぶるんるん♪オトナのダイエット

2017.07.16 : 東温市北方地区・医王寺「十七夜」視察  
2017.07.18 : 道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会  
2017.07.18 : 編集ワークショップ  
2017.07.19 : 第119回「まち@ラヂ」放送  
2017.07.20 : UDCM 出入口脇通行量・交通量調査  
2017.07.21 : 第5回街なか再生サポーター会議  
2017.07.22 : モバイル屋台プロジェクト「土曜夜市」出店  
2017.07.23 : 夏の宿題お助け隊  
2017.07.24 : 松山アーバンデザインスクール(3期, かやまちクラブ天神祭りへ出展)  
2017.07.25 : もぶるんるん♪オトナのダイエット  
2017.07.26 : 夏の宿題お助け隊  
2017.07.26 : 第31回社会実験運営委員会  
2017.07.26 : 第120回「まち@ラヂ」放送  
2017.07.26 : 大人の絵本講座  
2017.07.27 : 東温アーバンデザインスクール(2期, 第5回)  
2017.07.28 : 松山アーバンデザインスクール(3期, 第8回)  
2017.07.28 : 第6回松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会  
2017.07.29 : モバイル屋台プロジェクト「土曜夜市」出店  
2017.07.30 : 夏の宿題お助け隊  
2017.08.01 : 道後村まつり「椿のおもてなしプロジェクト」  
2017.08.01 : 編集ワークショップ  
2017.08.02 : 第121回「まち@ラヂ」放送  
2017.08.02 : 夏の宿題お助け隊  
2017.08.04 : 松山アーバンデザインスクール(3期, 第9回)  
2017.08.05 : 週末はまちなかで子育てをまなぶvol.2  
2017.08.05 : 星空散歩  
2017.08.06 : 夏の宿題お助け隊  
2017.08.09 : 夏の宿題お助け隊  
2017.08.09 : ハッピー絵本ライブ  
2017.08.09 : 第122回「まち@ラヂ」放送  
2017.08.09 : 松山アーバンデザインスクール(3期, 伊予縁班伊予縁会館へ視察)  
2017.08.12 : もぶる鉄道部「しこくれっしゃ大集合！」  
2017.08.13 : 夏の宿題お助け隊  
2017.08.16 : 第123回「まち@ラヂ」放送  
2017.08.19 : 夏だ！ 海だ！ あ, 噴水だ！  
2017.08.20 : 夏だ！ 海だ！ あ, 噴水だ！  
2017.08.21 : 今むかしまちなか地図めぐり  
2017.08.22 : 編集ワークショップ  
2017.08.22-23 : 平成29年度中心市街地まちづくり研究会(松山, 小野活動報告「松山アーバンデザインセンターによる公民学連携のまちづくり」)  
2017.08.23- : 本から学ぶまつやま  
2017.08.23 : 第124回「まち@ラヂ」放送  
2017.08.23 : 大人の絵本講座  
2017.08.23 : 第2回道後温泉観光会館再整備検討委員会  
2017.08.24 : 夏だ！ 海だ！ あ, 噴水だ！

2017.08.24 : 東温アーバンデザインスクール (2期, 第6回)

2017.08.24 : 道後ホテル建て替えデザイン協議

2017.08.25 : International Conference of Asian-Pacific Planning Societies 2017 (名古屋, 小野論文発表・Urban Movie Contest 出場 「Urban Design Center for Public-Private-Academic Collaboration: The Case of Urban Design Center Matsuyama」)

2017.08.28 : 第6回街なか再生サポーター会議

2017.08.30 : 第32回社会実験運営委員会

2017.08.30 : 第125回「まち@ラヂ」放送

2017.08.30 : 情報交流シンポジウム (広島, 小野講演「まちづくりの担い手育成プログラムの実践と展開～松山アーバンデザインセンターによる公民学連携のまちづくり～」)

2017.08.31-09.03 : 日本建築学会大会(中国) 学術講演会 (広島, 小野論文発表「松山アーバンデザインセンターによる公民学連携のまちづくり—設立から3年間の成果と今後の課題—」)

2017.09.01- : マドンナからの手紙

2017.09.02 : 週末はまちなかで子育てをまなぶ vol.2

2017.09.04 : 道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会

2017.09.06 : ハッピー絵本ライブ

2017.09.06 : 第126回「まち@ラヂ」放送

2017.09.08 : 松山市中心市街地歩行滞在者密度調査

2017.09.08-09 : 全国まちなか広場研究会参加・視察 (大阪)

2017.09.11 : 第1回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会 (尾崎講演「街のデザインが、街の価値を・める」)

2017.09.13 : 第127回「まち@ラヂ」放送

2017.09.13 : APS推進会議 都市+デザインフォーラム (東京, 尾崎講演「公共空間の戦略的・統合的デザインの実現に向けた体制と職能に関する考察」)

2017.09.14 : 砥部アーバンデザインスクール (1期, 第1回)

2017.09.17 : UDCM出入口脇通行量・交通量調査

2017.09.18 : 松山市中心市街地歩行滞在者密度調査

2017.09.19 : 編集ワークショップ

2017.09.19 : 第3回道後温泉観光会館再整備検討委員会

2017.09.20 : 第128回「まち@ラヂ」放送

2017.09.20 : 第28回UDCM運営会議

2017.09.20 : もぶるマガジン vol.5刊行

2017.09.21 : UDCM出入口脇通行量・交通量調査

2017.09.22 : 松山アーバンデザインスクール (1期, 第10回 (中間報告会))

2017.09.23 : 「花園町通り」リニューアル記念式典

2017.09.26 : 第7回街なか再生サポーター会議

2017.09.27 : 第33回社会実験運営委員会

2017.09.27 : 第129回「まち@ラヂ」放送

2017.09.27 : 第2回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会

2017.09.27 : 大人の絵本講座

2017.09.28 : 東温アーバンデザインスクール (2期, 第7回)

2017.09.29 : 産経新聞ミュージアムカフェ

2017.10.01 : 砥部アーバンデザインスクール (1期, 第2回)

2017.10.01 : 「移動する建築」都市設計コンペ応募締切

2017.10.03 : 編集ワークショップ

2017.10.04 : 第130回「まち@ラヂ」放送  
2017.10.05 : 第5回 udc会議 in 柏（千葉、尾崎活動報告「UDCM」・パネルディスカッション「中心市街地・既成市街地における UDC とエリマネジメント」）  
2017.10.06 : 松山アーバンデザインスクール（3期、第11回）  
2017.10.07 : 「移動する建築」都市設計コンペ一次審査  
2017.10.08 : 「みんなのひみつ基地」アイデア募集応募締切  
2017.10.11 : ハッピー絵本ライブ  
2017.10.11 : 第131回「まち@ラヂ」放送  
2017.10.11 : 第9回アーバンデザイン研究会「魅力ある都市のかたちとは」  
2017.10.12 : 砥部アーバンデザインスクール（1期、第3回）  
2017.10.12-13 : International Congress of Asian Planning Schools Association 2017（北京、小野論文発表「The Urban Design School in Matsuyama City: A Case Study of Experiential Learning and Community Collaboration」）  
2017.10.14 : 週末はまちなかで子育てをまなぶ vol.2  
2017.10.14 : 「みんなのひみつ基地」アイデア募集一次審査  
2017.10.16 : 編集ワークショップ  
2017.10.18 : 道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会  
2017.10.18 : 第132回「まち@ラヂ」放送  
2017.10.19 : 砥部アーバンデザインスクール（1期、第4回）  
2017.10.20 : 松山アーバンデザインスクール（3期、第12回）  
2017.10.21 : 東温アーバンデザインスクール（2期、東温市井内地区「棚田の新米まつり」へ出店）  
2017.10.25 : 第34回社会実験運営委員会  
2017.10.25 : 第133回「まち@ラヂ」放送  
2017.10.25 : 大人の絵本講座  
2017.10.26 : 砥部アーバンデザインスクール（1期、第5回）  
2017.10.27 : 松山アーバンデザインスクール（3期、第13回）  
2017.10.27 : ライブトーク「建築と交通は都市を—今松山から考える—」  
2017.10.28 : 「移動する建築」都市設計コンペ、「みんなのヒミツ基地」アイデア募集二次審査会  
2017.10.28-29 : チェキと、仮装と、こんくてすと  
2017.10.31 : 第7回三津浜地区景観まちづくり勉強会  
2017.11.01 : 第134回「まち@ラヂ」放送  
2017.11.05 : もぶるんるん♪大人のボディメイク  
2017.11.06 : 第29回 UDCM 運営会議  
2017.11.07 : 編集ワークショップ  
2017.11.07 : 「移動する建築」デザイン協議（南雲勝志氏およびデザイナーと）  
2017.11.08 : ハッピー絵本ライブ  
2017.11.08 : 第135回「まち@ラヂ」放送  
2017.11.09 : 東温アーバンデザインスクール（2期、第8回）  
2017.11.09 : 砥部アーバンデザインスクール（1期、第6回）  
2017.11.10 : 東温アーバンデザインスクール（2期、大街道「第6回高齢者まつり」へ出店）  
2017.11.10 : 松山アーバンデザインスクール（3期、第14回）  
2017.11.11 : ソトノバアワード二次審査会  
2017.11.13 : 第3回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会  
2017.11.14 : 第10回都市再生協議会  
2017.11.15 : 第8回松山市中心市街地賑わい再生社会実験専門部会

2017.11.15 : 第 136 回「まち@ラヂ」放送  
2017.11.15 : 大人の絵本講座  
2017.11.16 : UDCM 出入口脇通行量・交通量調査  
2017.11.16 : 砥部アーバンデザインスクール（1期、第 7 回）  
2017.11.17 : 第 4 回道後温泉観光会館再整備検討委員会  
2017.11.17 : 松山アーバンデザインスクール（3期、第 15 回）  
2017.11.18 : 松山アーバンデザインスクール（3期、かやまちクラブ「第 1 回かやまちクラブ」実施）  
2017.11.19 : UDCM 出入口脇通行量・交通量調査  
2017.11.19 : 松山アーバンデザインスクール（3期、NEXUS お城下マルシェへ出店）  
2017.11.19 : 「移動する建築」デザインワークショップ  
2017.11.21 : 編集ワークショップ  
2017.11.22 : 第 137 回「まち@ラヂ」放送  
2017.11.22 : 第 10 回アーバンデザイン研究会「新しい第三セクターをつくる」  
2017.11.23 : くつしたまいれ  
2017.11.24 : 星空散歩  
2017.11.26 : もぶるんるん♪大人のボディメイク  
2017.11.19 : 松山アーバンデザインスクール（3期、公園まちづくり@松山「城山ピクニック」実施）  
2017.11.29 : 第 35 回社会実験運営委員会  
2017.11.29 : 第 138 回「まち@ラヂ」放送  
2017.12.01 : 松山アーバンデザインスクール（3期、第 16 回）  
2017.12.02 : 星空散歩×もぶる工作教室  
2017.12.02 : 松山アーバンデザインスクール（3期、まつトラムラリー実施）  
2017.12.02-03 : 松山アーバンデザインスクール（3期、伊予縁班ハンドメイドアクセサリーエクス체험ワークシヨップ実施）  
2017.12.04 : 日本都市計画学会中国四国支部 支部間・支部内研究交流事業（徳島、尾崎講演「松山アーバンデザインセンターと中心市街地のまちづくり」）  
2017.12.05 : 神山町視察  
2017.12.06 : 「松山市美しい街並と賑わい創出事業」（三津浜地区視察）  
2017.12.06 : もぶるんるん♪大人のボディメイク  
2017.12.06 : 第 139 回「まち@ラヂ」放送  
2017.12.07 : 東温アーバンデザインスクール（2期、第 9 回）  
2017.12.07 : 砥部アーバンデザインスクール（1期、第 8 回）  
2017.12.10 : 松山アーバンデザインスクール（3期、NEXUS みんなのひろばにて出店）  
2017.12.13 : ハッピー絵本ライブ  
2017.12.13 : 第 140 回「まち@ラヂ」放送  
2017.12.14 : 大人の絵本講座  
2017.12.15 : 松山アーバンデザインスクール（3期、第 17 回）  
2017.12.16 : 松山アーバンデザインスクール（3期）、東温アーバンデザインスクール（2期）、砥部アーバンデザインスクール（1期）活動報告会  
2017.12.16-25 : まちなかでくでくクリスマス  
2017.12.17 : 「移動する建築」製作ワークショップ #1  
2017.12.19 : 編集ワークショップ  
2017.12.20 : もぶるんるん♪大人のボディメイク  
2017.12.20 : 第 141 回「まち@ラヂ」放送  
2017.12.20 : 第 4 回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会

2017.12.21 : 第30回UDCM運営会議  
2017.12.24 : もぶるクリスマス  
2017.12.24 : もぶる鉄道部「しこくれっしや大集合！」  
2017.12.24 : モバイル屋台プロジェクト「MOBURU CHRISTMAS」  
2017.12.25 : もぶるマガジンvol.6刊行  
2017.12.27 : 第36回社会実験運営委員会  
2017.12.27 : 第142回「まち@ラヂ」放送  
2018.01.10 : ハッピー絵本ライブ  
2018.01.10 : 第143回「まち@ラヂ」放送  
2018.01.12 : 産経新聞ミュージアムカフェ  
2018.01.14 : もぶるんるん♪大人のボディメイク  
2018.01.14 : 松山アーバンデザインスクール(3期, まつトラムラリー「路面電車サミット」にて活動報告)  
2018.01.15 : 第5回道後温泉観光会館再整備検討委員会  
2018.01.16 : 編集ワークショップ  
2018.01.16 : 松山アーバンデザインスクール(3期, まつトラムラリー婚活イベント実施)  
2018.01.17 : 第144回「まち@ラヂ」放送  
2018.01.18 : UDCM出入口脇通行量・交通量調査  
2018.01.21 : UDCM出入口脇通行量・交通量調査  
2018.01.23 : 愛媛大学COC公開講座 in 松山市(松山, かやまちクラブ・公園まちづくり@松山・お城下マルシェ活動報告プレゼンテーション, 尾崎パネルディスカッションコーディネーター「松山市の中心市街地の活性化を語り合う～大街道・銀天街周辺の場合～」)  
2018.01.24 : 第145回「まち@ラヂ」放送  
2018.01.26 : 大人の絵本講座  
2018.01.27 : 松山アーバンデザインスクール(3期, まつトラムラリー婚活イベント)  
2018.01.28 : もぶるんるん♪大人のボディメイク  
2018.01.28 : いい椿の日イベント  
2018.01.29 : 第31回UDCM運営会議  
2018.01.29 : 第5回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会  
2018.01.30 : 編集ワークショップ  
2018.01.31 : 第37回社会実験運営委員会  
2018.01.31 : 第146回「まち@ラヂ」放送  
2018.02.01 : もぶるマガジン, 愛媛県知事取材  
2018.02.04 : 「移動する建築」製作ワークショップ #2  
2018.02.05 : スマホで動画編集Workshop～地域の魅力や活動の発信に～  
2018.02.11 : もぶるんるん♪大人のボディメイク  
2018.02.14 : ハッピー絵本ライブ  
2018.02.14 : 第147回「まち@ラヂ」放送  
2018.02.15 : 砥部アーバンデザインスクール(1期, 第9回)  
2018.02.15 : 編集ワークショップ  
2018.02.19 : スマホで動画編集Workshop～地域の魅力や活動の発信に～  
2018.02.20 : 第8回三津浜地区景観まちづくり勉強会  
2018.02.20 : 「まち@ラヂ」FM愛媛勉強会  
2018.02.21 : 第148回「まち@ラヂ」放送  
2018.02.25 : もぶるんるん♪大人のボディメイク  
2018.02.26 : スマホで動画編集Workshop～地域の魅力や活動の発信に～

2018.02.28 : 第 38 回社会実験運営委員会  
2018.02.28 : 第 149 回「まち@ラヂ」放送  
2018.02.28 : 大人の絵本講座  
2018.03.01 : 松山アーバンデザインスクール（3期、休日プランナーズ「MUST」刊行）  
2018.03.04 : もぶるんるん♪大人のボディメイク  
2018.03.05 : スマホで動画編集 Workshop～地域の魅力や活動の発信に～  
2018.03.06 : 砥部アーバンデザインスクール（1期、第 10 回）  
2018.03.07 : 第 32 回 UDCM 運営会議  
2018.03.08 : 東温アーバンデザインスクール（2期、第 10 回）  
2018.03.10 : 松山アーバンデザインスクール（3期、公園まちづくり@松山「凧あげまつり@城山公園」実施）  
2018.03.14 : ハッピー絵本ライブ  
2018.03.14 : 第 150 回「まち@ラヂ」放送  
2018.03.15 : UDCM 出入口脇通行量・交通量調査  
2018.03.18 : お城下マルシェ  
2018.03.18 : UDCM 出入口脇通行量・交通量調査  
2018.03.18 : 「移動する建築」お披露目会  
2018.03.18 : UDCM フォーラム「松山からデザインする」  
2018.03.19 : スマホで動画編集 Workshop～地域の魅力や活動の発信に～  
2018.03.20 : もぶるマガジン vol.7 刊行  
2018.03.21 : 第 151 回「まち@ラヂ」放送  
2018.03.22 : 編集ワークショップ  
2018.03.24 : まちのがっこ  
2018.03.25 : 松山アーバンデザインスクール（3期、公園まちづくり@松山が提案し、城山公園内の the Park M's Coffee にてピクニックグッズのレンタルサービス開始）  
2018.03.27 : まちのがっこ  
2018.03.28 : 第 152 回「まち@ラヂ」放送  
2018.03.28 : 第 39 回社会実験運営委員会  
2018.03.30-31 : まちのがっこ  
2018.03.31 : 道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会

## 2.5 防災士養成講座

愛媛大学防災情報研究センターは、松山市消防局等の協力の下、平成29年8月19日(土)～22日(火)及び10月14日(土)～15日(日)、「防災士養成講座」を松山市保健所消防合同庁舎防災センターで開催し、平日(月・火)コースと休日(土・日)コース併せて、自主防災会の皆様、企業関係者、学生など490名の参加がありました。多数のご参加をいただき、誠にありがとうございます。

この講座は、防災に関する正しい知識と技能を持ち、災害時には、自助、共助の中心として地域で活躍できる防災士を養成することを目的としています。

開催に先立ち、同センター矢田部特命教授から、7月の九州北部豪雨災害についてふれ、自然災害とは、時に想像を超えた外力の暴発であり、今後もどこでも起こり得ることです。生命と財産を守るために防災に関する知識が必要です。この講座において、防災に関する意識・知識・技能を高めて防災士資格を取得して、家族と地域社会を守る先頭に立っていただきたいと挨拶をしました。

なお、講座内容は、同センターの教員から、近年の自然災害に学ぶ、耐震診断と補強、都市防災、風水害、土砂災害とその対策、地震のしくみと被害等についての講義を担当、また松山市職員から防災士の役割、避難所運営、地域の防災活動、地域防災計画と防災マップ、松山市における災害とその対応等の講義及び災害から命を守る救助技術の実技として、ロープワーク、応急担架の作成や搬送方法、倒壊家屋からの救出救護の方法について参加者一人ひとりが技術の習得をされました。

最終日、日本防災士機構が実施する防災士の試験を希望された参加者は、緊張の中、真剣に試験問題に取り組んでいました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：第1回 平成29年8月19日(土)～20日(日)

第2回 平成29年8月21日(月)～22日(火)

第3回 平成29年10月14日(土)～15日(日)

場 所：松山市保健所・消防合同庁舎

参加者：490名



←実技指導の様子



講義の様子

講座日程（カリキュラム）：

日程	会場	時 限	時 分	講 義 内 容	講 師
1 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	趣旨説明 ビデオ上映	9:15～9:30	オリエンテーション	
		1 時限目	9:30～10:30	防災士の役割	松山市消防局 芝 大輔 講師
		2 時限目	10:40～11:40	近年の自然災害に学ぶ	愛媛大学 矢田部龍一 講師
		昼 食（防災ビデオ上映）			
		3 時限目	12:40～13:40	耐震診断と補強	愛媛大学 二神 透 講師
		4 時限目	13:50～14:50	都市災害	愛媛大学 二神 透 講師
		5 時限目	15:00～16:00	風水害、土砂災害とその対策	愛媛大学 森脇 亮 講師
		6 時限目	16:10～17:10	地震のしくみと被害	愛媛大学 高橋 治郎 講師
			17:10～17:20	事務連絡	
		1 時限目	9:30～11:40	災害から命を守る救助技術 実技指導	松山市消防局
2 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	2 時限目			
		昼 食（防災ビデオ上映）			
		3 時限目	12:40～13:40	避難所運営	松 山 市 渡部 恵子 講師
		4 時限目	13:50～14:50	地域の防災活動	松山市消防局 芝 大輔 講師
		5 時限目	15:00～16:00	地域防災計画と防災マップ	松 山 市 栗原 英弥 講師
		6 時限目	16:10～17:10	松山市における災害とその対応	松 山 市 小原 友弘 講師
		日本防災士 機構 主催	17:30～18:30	防災士資格取得試験	N P O 法人日本防災士機構が実施する 防災士資格取得試験です。

## 2.6 社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座

### 1. 実施概要

#### (1) ME 養成講座

受講申込受付： 平成 29 年 8 月 8 日(火)～平成 29 年 9 月 8 日(金)

受付審査： 平成 29 年 9 月 14 日(木) 愛媛大学管理運営委員会（大学委員）

定員 30 人に対して 39 名の申し込み、33 名（行政 15 名、民間 18 名）を選別

受講生： 31 名（行政 14 名、民間 17 名）諸事情により 2 名が辞退

#### ME 養成講座カリキュラム

（愛媛大学履修証明プログラムとして 12 日間の講座と e ラーニング（橋梁関係）の 121.5 時間）

講座期間	科目シリーズ
前半（第 1, 2 日） 10 月 19 日(木)～10 月 20 日(金) (第 2～5 日) 10 月 23 日(月)～10 月 25 日(水)	インフラマネジメント(1) ①橋梁のメンテナンス
中間（第 6～7 日） 11 月 1 日(水)～11 月 2 日(木)	②トンネルのメンテナンス 下水道のメンテナンス
後半（第 8～10 日） 11 月 6 日(月)～11 月 8 日(水) (第 11, 12 日) 11 月 9 日(木)～11 月 10 日(金)	③港湾・海岸施設、河川構造物のメンテ ④斜面・擁壁のメンテナンス 地域地盤、維持管理の現状、新技術 インフラマネジメント(2), メンテナンス 技術者倫理、ワークショップ

①～④はシリーズ特別受講科目（下記）

#### ME 認定試験

筆記試験： 平成 29 年 11 月 30 日(木)午前 択一問題試験（25 問、試験時間 120 分）

同上 午後 論文問題試験（2 問、試験時間 180 分）

プレゼンテーション・面接試験： 平成 29 年 12 月 6 日(水)・7 日(木)（発表 7 分、質疑 8 分）

※再受験者：選択問題試験 1 名（前年度不合格者）、面接試験

#### ME 認定審査と結果

審査会： 平成 29 年 12 月 7 日(木) 16:00～17:00

審査委員： 社会基盤メンテナンスエキスパート運営委員会（愛媛大学 5 名、外部 5 人）

認定試験合格者（四国 ME）： 31 名 不合格：再受験者

#### 特別受講

シリーズ受講： 受講資格（総合カリキュラムの受講申請資格に同じ）、受講料（有料）

募集（各シリーズ 3 名）、受講者（橋梁シリーズ 1 名、斜面シリーズ 1 名）

オープン聴講： 受講資格（制限なし）、受講料（有料）、受講科目（各座学）

募集（各科目 6 名）、聴講者（延べ 78 人）

サテライト聴講（試行）： 受講資格（制限なし）、受講料（無料）、受講科目（2 科目）

場所（愛媛大学地域協働センター西条）、参加者（社会基盤のアセットマネジメント 8 名、劣化モデルと評価手法 13 名）

#### 四国 ME 認定式（履修証と認定証の授与式）

開催日： 平成 30 年 1 月 12 日（金） 10:45～11:45

場 所： 愛媛大学南加記念ホール

#### **(2) 香川 橋梁メンテナンスエキスパート（ME）プログラム**

ME 養成講座の四国展開の一つとして香川大学で試行講座を実施

受講申込受付： 平成 29 年 8 月 25 日（金）～平成 29 年 9 月 15 日（金）

開催日： 平成 29 年 9 月 29 日（金）， 30 日（土） 2 日間

参加者： 26 名

#### **(3) 徳島 橋梁メンテナンスエキスパート（ME）プログラム**

ME 養成講座の四国展開の一つとして、昨年度に引き続き徳島大学で試行講座を実施

受講申込受付： 平成 29 年 10 月 2 日（月）～平成 29 年 10 月 31 日（火）

開催日： 平成 29 年 11 月 24 日（金）， 25 日（土） 2 日間

参加者： 22 名

#### **(4) シンポジウム**

本講座の一環として「シンポジウム：地域ニーズに応えるインフラ再生技術者の育成」を開催

開催日： 平成 30 年 1 月 12 日（金） 13:30～17:00

場 所： 愛媛大学南加記念ホール

参加者： 230 名（事前申込 244 名；ME・大学関係者含む）

意見交換会：93 名

### **2. 推進協議会等の開催**

6 月 2 日 愛媛 ME の会総会

8 月 4 日 愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会（第 1 回）

8 月 4 日 社会基盤メンテナンスエキスパート運営委員会（第 1 回）

11 月 15 日 社会基盤メンテナンスエキスパート運営委員会（第 2 回）

12 月 7 日 社会基盤メンテナンスエキスパート運営委員会（四国 ME 認定試験審査会）

12 月 19 日 愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会 第 1 回メンテナンス地域推進調査部会

2 月中旬頃 愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会 第 2 回メンテナンス地域推進調査部会

表 1 「愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会」の参加組織

愛媛大学 防災情報研究センター/理工学研究科環境建設工学コース

国土交通省 四国地方整備局/松山河川国道事務所・愛媛県・松山市・今治市・宇和島市・新居浜市・西条市・大洲市・伊予市・四国中央市・西予市・東温市・上島町・久万高原町・松前町・砥部町・内子町・伊方町・松野町・鬼北町・愛南町・西日本高速道路（株）四国支社・（一社）愛媛県建設業協会・愛媛県土木施工管理技士会・（一社）建設コンサルタント協会四国支部・（一社）愛媛県測量設計業協会・（一社）全国地質調査業協会連合会 四国地質調査業協会愛媛支部・愛媛県管工事協同組合連合会・（一社）全国特定法面保護協会 四国地方支部 愛媛県事務所・愛媛県法面工事業協同組合・特定非営利活動法人 愛媛県建設技術支援センター

## ■平成 29 年度 受講生

計 31 名

四国地方整備局（松山河川国道事務所）	1名
愛媛県	5名
市町（松山、今治、宇和島、四国中央、西予、砥部、内子）	8名
民間（旧公団、協会）	2名
民間（施工系）	2名
民間（コンサルタント系、調査）	7名
民間（測量ほか）	6名
	小計 14名
	小計 17名

## ■平成 29 年度受講生の専門

※現在の専門○、今後の専門△、赤：現在かつ今後

	橋梁	トンネル	斜面・擁壁	港湾・海岸	河川	下水道	その他	その他 道路	その他 舗装	その他 砂防	その他 水道
現在○	18	7	19	6	12	4	3	2	1	3	1
今後△	29	21	29	13	22	9	3	3	1	3	1
	△		○	△	△	△					
	○	○	○	○	○						
	○	△	○	△	△						
	○		○			△					
	△	△	△		△			○			
	○	○	△	△		△					
	○	△	△	△	△						
	○	△	○		○						
	○	△	△	△	△	○					
	△	△	○	○	○						
	○		△			○				○	
	○	△	△	○	○						
	○	○	○		△	○					
	○	△	○		○						
	○		○								
	○	△	△	○			○				
	△	△	○		△			○			
	○	○									
	△	△							○		
	△		△		○	○	○				
		○		○	○				○		
	△		○		△						
	○	○	○								
	○	△	○								
	○		○		○	○					
	○	△	△		○		○				
	△	△	○	○	○	△	○				
	△	△	△	△	○			△		○	
	○		○		○						
	△	○	○	△	△						
			○								

## ■ME の構成（所属と年齢）

表 2 四国 ME の所属構成

年度	行政機関				民間会社				
	国交省	愛媛県	市	町	公益会社	コンサル	建設会社	測量会社	その他
2014(H26)	1	2	6	1	2	8	2	1	1
2015(H27)	1	2	6	4	1	5	1	0	1
2016(H28)	1	2	6	0	1	9	0	2	0
2017(H29)	1	5	5	3	1	9	1	4	2
合計	4	11	23	8	5	31	4	7	4
	46				51				

表 3 四国 ME の年齢構成

年齢 年度	20代		30代		40代		50代		60代
	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64
2014(H26)	0	1	3	4	7	6	3	1	1
2015(H27)	0	1	3	8	7	3	0	0	0
2016(H28)	0	3	1	7	8	4	0	1	0
2017(H29)	2	2	10	4	7	4	0	2	0
合計	2	7	17	23	29	17	3	4	1
	9		40		46		7		1

※年齢はME養成講座の受講時

## ■社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座の目的

- ・社会インフラのアセットマネジメントならびに長寿命化の観点に立って、俯瞰的に社会基盤の維持管理を行うことの出来る技術者（社会基盤の“目利き”）を養成する。
- ・愛媛や四国の地域特性を踏まえ、地震や豪雨などの防災・減災にも精通した地域の核となる技術者を育成する。
- ・人的ネットワークの形成  
産官学の垣根のない「技術と知識に基づく人的ネットワークの構築」  
立場の枠を超えたコミュニケーションの実現

■平成29年度 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座カリキュラム

科目枠	開催日	1時限目 (8:30~10:00)	2時限目 (10:20~11:50)	3時限目 (12:40~14:10)	4時限目 (14:30~16:00)	5時限目 (16:20~17:50)	(18:30~20:00)
前半	1 10/19 (木)	養成講座の概要説明 受講開始時能力診断 (開講式・ガイダンス) 【愛媛大学:森脇亮】	社会基盤と維持管理 (総論) 【愛媛大学:山本浩司】	社会基盤のアセットマネジメント 【大阪大学:貝戸清之】	グループ事例研究 【岐阜大学:熊田素子】	講義,事例研究のレポート作成	
	2 10/20 (金)	舗装の設計と維持管理 【ニチレキ:駒形望】	道路附帯設備の点検と補修工法 【NEXCOエンジ四国:木村正義】	劣化モデルと評価手法 【愛媛大学:全邦釤】	劣化モデルと評価手法<演習> 【愛媛大学:全邦釤】	グループ事例研究 【岐阜大学:熊田素子】 【ME】	講義,事例研究のレポート作成
	3 10/23 (月)	橋梁上部工の設計と維持管理 (コンクリート橋) 【愛媛大学:氏家勲】	橋梁上部工の設計と維持管理 (鋼橋) 【舞鶴高専:玉田和也】	<実習> コンクリートの耐久性試験 【愛媛大学:河合慶有】	橋梁構造物の基礎工・下部工の設計と維持管理 【芙蓉コンサル:須賀幸一】 【富士建設コン:原田徹】	橋梁の耐震補強 【四国建設コンサルタント:佐伯龍司】	講義,事例研究のレポート作成
	4 10/24 (火)	コンクリート橋の損傷と補修工法 【大日コンサルタント:牧野徹】	鋼橋の損傷と対策 【共同技術コンサルタント:松永昭吾】	<実習> 新技術による点検 【大日本コンサルタント:小林大】	橋梁の補修設計 【大日本コンサルタント:小林大】	橋梁上部工の設計と維持管理 (床版) 【徳島大学:上田隆雄】	講義,事例研究のレポート作成
	5 10/25 (水)	橋梁の維持管理手法 【愛媛大学:森伸一郎】		<実習,演習> 橋梁の点検と診断,補修 【愛媛大学:森伸一郎,全邦釤】 【芙蓉コンサルタント:須賀幸一】 【富士建設コンサルタント:原田徹】 【PC建協・三井住友建設:藤原保久】 【ME】			講義,事例研究のレポート作成
中間	6 11/1 (水)	トンネルの設計 【鹿島建設:木村宏】	トンネルの損傷と補修工法 【NEXCOエンジ四国:古川清司】	下水道の維持管理 【日本下水道事業団:長澤不二夫】	<実習> 下水道の点検と診断,補修 【松山市】【日本下水道管路管理業協会】		講義,事例研究のレポート作成
	7 11/2 (木)	トンネルの点検と診断 【応用地質:太田裕之】		<実習,演習> トンネルの点検と診断,補修 【応用地質:太田裕之】 【四国地方整備局】 【ME】			講義,事例研究のレポート作成
後半	8 11/6 (月)	港湾・海岸施設の維持管理 【愛媛県:近藤孝利】	港湾・海岸施設の損傷と補修 【五洋建設:内藤英晴】	<実習> 海岸施設の点検と診断,補修 【愛媛県】【エイト日本技術開発:大西慎一】	グループ事例研究 【岐阜大学:熊田素子】 【ME】		講義,事例研究のレポート作成
	9 11/7 (火)	河川構造物の維持管理 【鹿島建設:嘉田功】	河川堤防の損傷と補修 【松山河川国道:松下越夫】	斜面の設計と維持管理 【一山コン:山下祐一】 【芙蓉コン:須賀幸一】	斜面の設計と維持管理<演習> 【一山コン:山下祐一】 【芙蓉コン:須賀幸一】	ME報告会 グループ事例研究 【岐阜大学:熊田素子】 【ME】	講義,事例研究のレポート作成
	10 11/8 (水)	擁壁の設計と維持管理 【第一コンサルタント:右城猛】	擁壁の設計と維持管理<演習> 【第一コンサルタント:右城猛】	<実習> 自然斜面,落石,切土,擁壁の点検と診断,補修 【第一コンサルタント:右城猛】 【芙蓉コンサルタント:須賀幸一】 【一山コンサルタント:山下祐一】 【ME】			講義,事例研究のレポート作成
	11 11/9 (木)	地域の地盤特性と健全度評価 【愛媛大学:山本浩司】	四国・愛媛県の地形と地質 【香川大学:長谷川修一】	愛媛県の社会基盤と維持管理の取り組み 【愛媛県:高橋洋八郎】	ICT施工と新技術の地域実装 【愛媛大学:全邦釤】	橋梁の簡易点検と清掃による長寿命化 【香川大学:岡崎慎一郎】	講義,事例研究のレポート作成
自己学習(事前)	11/10 (金)	ライフサイクルコスト 【岐阜大学:倉内文孝】	リスクマネジメント 【愛媛大学:森伸一郎】	メンテナンス技術者倫理 【岐阜大学:八嶋厚】	社会基盤と維持管理ワーキングショップ 【愛媛大学:森伸一郎】	今後の技術向上に向けて(閉講式) 【愛媛大学】	講義,事例研究のレポート作成
eラーニング	橋梁工学		コンクリート構造物の損傷		鋼構造物の損傷		
	構造物の補修・補強		共通の損傷		橋の点検要領		
	コンクリート橋の点検		鋼橋の点検		構造物の詳細調査		

※赤字

H28からの変更

【内訳】

座学	54.0 時間	36 コマ
演習	7.5 時間	5 コマ
実習	22.5 時間	15 コマ
グループ研究	6.0 時間	4 コマ
レポート作成	18.0 時間	12 コマ
eラーニング	13.5 時間	9 コマ
	121.5 時間	(=1.5時間)

## 開講式



## 座学



### フィールド実習(橋梁)



### フィールド実習(下水道)



### フィールド実習 (トンネル)



フィールド実習  
(海岸施設)



フィールド実習  
(自然斜面など)



四国ME(履修者)による助言・補助



インフラメンテナンス  
ワークショップ  
(12日間の総括学習)



閉講式(修了証書授与)



閉講式(4期生受講修了おめでとう)



## ■サテライト聽講

【アンケート】 Q：愛媛大学の総合的なME養成講座プログラムを受講したいと思いますか？

- |                                      |    |                                     |
|--------------------------------------|----|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 講義室で受講したい   | 4名 | (所属事務所から近い1名, テレビ画面が見づらい1名)         |
| <input type="checkbox"/> サテライトで受講したい | 9名 | (松山いけない, 移動時間短縮, スポット受講, 講義室と差感じない) |
| <input type="checkbox"/> 希望しない       | 4名 | (ME取得済み3名)                          |



## ■四国 ME 認定式（履修証明・認定証授与）



開会挨拶（森脇センター長）

履修証とME認定証の授与

講評と激励の言葉（吉井教授）



ME認定者

## ■香川 橋梁メンテナンスエキスパート（ME）プログラム

### 9月29日（金）

- 1講時(9:30～10:40) ガイダンス・話題提供・アイスブレーク  
2講時(10:50～12:00) 橋梁の点検と長寿命化修繕計画 四国地方整備局 原田 康  
3講時(13:00～14:10) 橋梁の非破壊検査 香川大学 吉田秀典・岡崎慎一郎  
4講時(14:20～15:30) コンクリート橋の構造と劣化 香川大学 松島 学  
5講時(15:40～16:50) 橋梁のアセットマネジメント 香川大学 岡崎慎一郎  
18:00～ 交流会

### 9月30日（土）

- 1講時(9:30～10:40) RC橋梁上部工の設計と維持管理 香川大学 岡崎慎一郎  
2講時(10:50～12:00) 橋梁の簡易点検と清掃による長寿命化 香川大学 松島 学  
3,4講時(13:00～16:00) フィールドワーク  
　　橋梁の簡易点検と非破壊検査の実践  
　　香川大学 松島 学, 岡崎慎一郎  
　　香川高専 林 和彦  
　　愛媛MEの会 大野哲也, 兵頭伸幸, 弓立 晃  
5講時(16:00～) 修了式 司会 愛媛大学 山本浩司  
　　1. 受講証の授与 香川大学 岡崎慎一郎  
　　2. 閉講の挨拶（総評） 香川大学 松島 学  
　　3. 愛媛ME養成講座より閉講の挨拶 愛媛大学 森脇 亮  
　　4. 記念写真撮影



座学



フィールド実習



グループ討議（WS）



閉講式の記念撮影

## ■徳島 橋梁メンテナンスエキスパート（ME）プログラム

### 11月24日（金）

- 1講時(9:30～10:40) ガイダンス・話題提供・受講のこころえ  
2講時(10:50～12:00)橋梁の点検と長寿命化修繕計画  
3講時(13:00～14:10)コンクリート橋の劣化現象と対策  
4講時(14:20～15:30)橋梁のアセットマネジメント フジタ建設コンサルタント  
5講時(15:40～16:50)橋梁の非破壊検査  
18:00～ 交流会

原田 康  
上田隆雄  
山本晃臣  
渡邊 健

### 11月25日（土）

- 1講時(9:00～10:10) 橋梁上部工の設計と維持管理 四国建設コンサルタント  
2講時(10:20～11:30)構造物の維持管理～道路橋の維持管理の考え方～  
3,4講時(13:00～16:30) フィールドワーク 橋梁点検と非破壊検査の実践  
5講時(16:30～) 閉講式  
1. 受講証書の授与  
2. 閉講の挨拶（総評）  
3. 記念写真撮影

松田秀和

愛媛大学 全 邦釤

徳島大学 上田隆雄, 渡邊 健  
愛媛大学 全 邦釤  
愛媛MEの会 西森幸弘・江原博司

司会 愛媛大学 山本浩司  
徳島大学 上田隆雄  
徳島大学 上田隆雄



フィールド実習



座学



グループ討議（WS）



閉講式の記念撮影

## ■シンポジウム：地域ニーズに応えるインフラ再生技術者の育成

平成30年1月12日（金）

13:30～13:35 開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 森脇 亮

### 講 演

13:35～14:05 四国における社会基盤メンテナンスの現状と課題

国土交通省四国地方整備局 企画部長 野崎智文氏

14:05～14:35 愛媛県の社会基盤の現状と長寿命化対策について

愛媛県 土木部長 横口志朗氏

### 特別講演

14:50～15:50 4年目に入ったインフラメンテナンス～見えてきた課題と新技術～

国立研究開発法人 土木研究所 理事長 西川和廣氏

### 報 告

16:05～16:35 インフラ維持管理の人材育成と新技術の地域実装

愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 全 邦釤

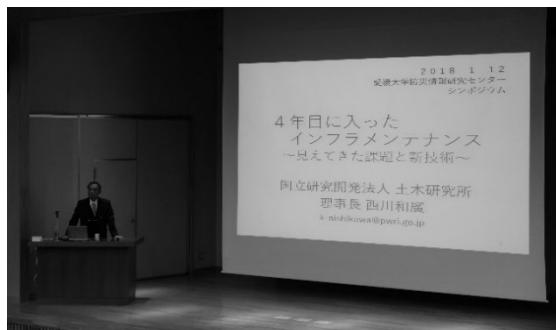
16:35～16:55 「愛媛MEの会」の活動

愛媛MEの会 國澤 豊氏

16:55～17:00 閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター 特命教授 矢田部 龍一

(司会：愛媛大学防災情報研究センター 山本浩司)



特別講演 土木研究所 理事長 西川和廣氏

### 3. 社会基盤 ME 養成講座のホームページ開設

<http://ehime-me.jp/>

The screenshot shows the homepage of the Ehime University Society of Infrastructure Management (ME) Training Course. The URL in the address bar is <http://ehime-me.jp/>. The page title is "愛媛大学社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成講座". The header includes the university logo, the title, and the Center for Disaster Management (CDM) logo. A large black and white photograph at the top shows a group of people in safety gear working under a bridge or over a riverbed. Below the photo, there's a "New Information" section with two items: "2018年01月11日 ホームページを公開しました。" and "2017年12月26日 2018年1月12日「シンポジウム：地域ニーズに応えるインフラ再生技術者の育成」を開催しました。". On the right, there's a "Contact Us" section with the phone number 〒790-8577, address 奈良県松山市文京町3番, and the message "国立大学法人愛媛大学". A "PAGE TOP" button is also present.

This screenshot shows a different view of the same website. It features a large black and white photograph of workers in a tunnel, with one worker standing on a lift platform. The navigation menu at the top includes "ホーム", "お知らせ", "MEとは", "ME養成講座", "MEの活動", "MEの声", and "関連情報". The header and footer elements are identical to the first screenshot, including the university logo, title, and CDM logo.

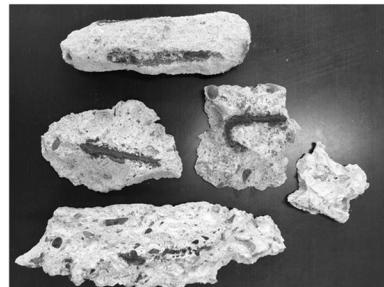
## 4. 受講前後の実力診断試験（育成効果の計測）

### メンテナンス基礎力の向上

2017年度（平成29年度）に、新たに受講前後の実力診断試験を実施

- ある老朽化が進む橋梁（実習フィールド）のコンクリート破片を見せ、それより想像されることを次の5項目で問う
- 各問に対し書き出された回答数（5個以上は“もっと書けます”=5）より、受講前後で受講者の基礎力の変化を見る

※試験時間20分



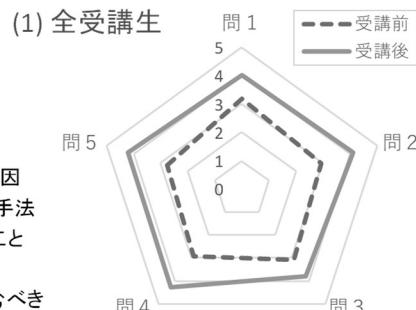
- 問1) 破片より考えられる状態と原因  
 問2) 状況を正確に点検診断する手法  
 問3) この橋梁の管理上で考えること  
 問4) 同様な事態が生じる構造物  
 問5) インフラ老朽化問題に取組むべき課題



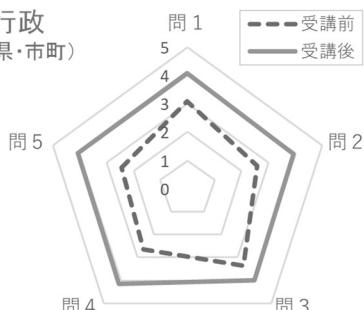
- 回答率の変化（上昇）  
 回答の質の変化

### （試験結果） 平均値

- 問1) 破片より考えられる状態と原因  
 問2) 状況を正確に点検診断する手法  
 問3) この橋梁の管理上で考えること  
 問4) 同様な事態が生じる構造物  
 問5) インフラ老朽化問題に取組むべき課題



(2) 行政  
(国・県・市町)



**全平均**

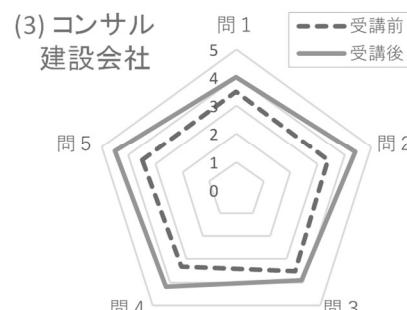
- 全体では各問で受講前の3から受講後は4へ上昇
- 所属別にも到達レベルは同様  
⇒一様な育成効果
- 所属別
  - コンサル・建設会社は潜在的に能力が高く、1~1.5ランク上昇
- 行政機関は、受講後に同程度のレベルに上昇

【全受講生31人】

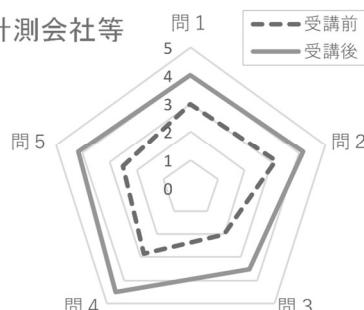
	問1	問2	問3	問4	問5
受講前	3.2	2.9	3.1	2.9	2.8
受講後	4.0	4.1	3.8	4.3	4.2

【行政受講生14人】

	問1	問2	問3	問4	問5
受講前	3.1	2.6	3.4	2.6	2.4
受講後	4.1	3.9	4.0	4.1	4.1



(4) 計測会社等



【コンサル・建設会社受講生（9+1人）】

	問1	問2	問3	問4	問5
受講前	3.5	3.4	3.5	3.3	3.5
受講後	4.0	4.4	3.9	4.2	4.5

【計測会社等受講生（6人）】

	問1	問2	問3	問4	問5
受講前	3.0	3.2	2.0	2.8	2.5
受講後	4.0	4.2	3.5	4.5	4.2

## 2.7 防災情報研究センターニュース（メールマガジン）

本年度は、15件のメールマガジン配信を行いました。3月末時点の登録者数は、1,103名です。  
メールマガジン配信希望の方は、センターHPからお申し込みください。また、バックナンバーもセンターHPで公開しています。  
防災情報研究センター ホームページ <http://cdmir.jp/>

発行日	号	タイトル
2017.4.11	441	<お知らせ1>平成29年度 防災情報研究センター新体制について <お知らせ2>寄付講座「防災・橋梁メンテナンス技術研究部門」を新設しました
2017.4.25	442	<ご案内>公開講座「防災土養成講座」の受講者募集について
2017.5.1	443	<ご案内>防災情報研究センター平成28年度活動報告会の開催について
2017.7.10	444	<ご案内>平成29年7月九州北部豪雨災害の調査速報会の開催について
2017.7.19	445	<ご案内>平成29年7月九州北部豪雨災害調査第2回速報会の開催について
2017.7.21	446	<ご案内>「えひめ建設BCP研究会」参加企業の募集について
2017.8.9	447	<ご案内>平成29年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座の開講について
2017.9.22	448	<ご案内>平成29年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座特別受講の募集について
2017.10.12	449	<ご案内>平成29年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座サテライト聴講の募集について
2017.11.2	450	<ご案内>ドローン・ロボットを活用した橋梁点検実証実験の実施について
2017.11.7	451	<ご案内>河川堤防技術に関する講演会について
2017.12.13	452	<ご案内>シンポジウム:地域ニーズに応えるインフラ再生技術者の育成」の開催について
2018.1.30	453	<ご案内>ME養成講座ホームページのURLが変更になりました
2018.2.20	454	<ご報告>平成29年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座の報告書をHPにアップしました
2018.3.8	455	<ご案内>「えひめ建設BCP研究会」参加企業の募集について

### **3. センターが受け入れた研究活動**

#### **3.1 受託研究**

##### **(1) 地理空間情報と環境情報を活用した災害避難共助支援による減災力向上に関する研**

究開発

(契約先：四国総合通信局，研究者：二神，契約金額：1,836,900 円)

内容：南海トラフ巨大地震によって生じる地震災害や津波被害に対して、共助・自助による減災力向上することを目的として、地域住民による災害避難計画の立案を支援する。さらにその結果を住民どうしで共有するためのクラウドシステムを開発し、実践する。また、環境および防災教育用教材を充実し、住民によるハザードマップ作りや、まち作りコミュニティ活動等を支援する機能を開発することによって、平時から使えるシステムとする。

##### **(2) 市町村ニーズに応える革新的な点検支援システムに関する研究開発**

(契約先：国土技術政策総合研究所，研究者：全，契約金額：12,171,720 円)

内容：市町村の橋梁点検において課題となっている狭小橋梁の点検に伴う交通規制、および点検時の損傷見落とし等に対して、通行規制を伴なわない近接装置および点検支援システムの開発を行う。

##### **(3) 戦略的イノベーション創造プログラム**

(契約先：科学技術振興機構，研究者：全，契約金額：8,885,000 円)

内容：平成 29 年度は、平成 28 年度に引き続き、近接目視点検の結果を収集し、データベースを構築する。また、愛媛県内で使える物とするため、使いやすい形式のインターフェースと GIS システム連携機能を備える、愛媛大学版アセットメントシステム作成を開始する。データフォーマットについては、高知工科大学の那須教授からアセットマネジメントシステムの情報を得て決定する。加えて、平成 28 年度より行っているインフラメンテナンス新技術勉強会や、フィールド試験見学会を本年度も継続し、SIP で開発されている新技術などの普及活動を行う。実際のインフラ構造物での SIP 新技術の実証実験についても、管理者側と、技術開発者側とのマッチングを通して準備を進めていく。また、愛媛県内の自治体のヒアリングをもとにした地域のニーズの洗い出しについても継続して行う。

#### **3.2 受託事業**

##### **(1) 平成 29 年度専修学校による地域産業中核の人材養成事業**

(契約先：文部科学省，研究者：森脇，契約金額：16,917,624 円)

内容：産学官の連携した取組により、専門人材養成を戦略的に推進するため、成長分野等における取組を先導する産学官連携コンソーシアムを組織化し、中核的専門人材及び高度人材養成のための新たな学習システムを検討し、産学官で共有するとともに、職域プロジェクト等において、全国的な標準モデルカリキュラムやその達成度評価手法、各地域の人材ニーズに対応した教育プログラム等を開発・実証する。

- (2) 松山市中心市街地賑わい再生社会実験業務委託  
(契約先：松山市，研究者：柳原，契約金額：14,990,400円)  
内容：中心市街地の低未利用地を転用し、整備を行ったまちなか交流施設にて、地元商店街等との連携によるまちなかの回遊性を高めるプログラムや、民間等との連携による持続可能な維持管理・運営のしくみを試行することによって、まちの活性化および賑わい再生に向けた効果的な仕組みを検証するとともに、今後の中心市街地における居住環境改善等についての検証・検討を行う。

- (3) 火災延焼シミュレーションシステムの改良支援  
(契約先：都市緑化機構，研究者：二神，契約金額：1,080,000円)  
内容：平成28年度「都市におけるみどりを活用した防災・減災対策推進等調査」で実施した火災延焼シミュレーション手法をベースとしつつ、より実態に即したものとなるよう、建築物の耐火性能を加味したシミュレーションへの改良や自治体において当該手法を活用できるようシミュレーションシステムの操作性能の改良作業を行う。

### 3.3 共同研究

- (1) マルチチャンネルアンテナによる含水比マッピング技術の確立  
(契約先：カナン地質株式会社，研究者：全，契約金額：1,980,000円)  
内容：マルチチャンネルアンテナを用いた含水比測定と種々の効率化を目的とする。CMP法により得られる比誘電率から含水比を測定し、他手法との比較・校正による含水比測定の高精度化。アンテナ搭載車にて効率的探査を行うためのパラメータ検査。(取得時間、走査速度、共通中点数、チャンネル数等)

### 3.4 寄附金

- (1) 寄附講座アーバンデザイン研究部門  
(契約先：松山市都市再生協議会，助成金額：90,000,000円)  
設置期間：平成26年4月1日～平成29年3月31日
- (2) その他  
株式会社シアテック、日本プロテクト株式会社、株式会社愛媛建設コンサルタント、愛媛県建設技術支援センター

## 4. センター教員による研究・地域貢献活動

### 【森脇 亮】

社会貢献活動：

1. 2017.10.26 防災教育推進連絡協議会（松前町）
2. 2017.11.13 防災教育推進連絡協議会（松山市）
3. 2017.11.16 防災教育推進連絡協議会（大洲市）
4. 2017.11.30 防災教育推進連絡協議会（宇和島市）
5. 2017.12.20 防災教育推進連絡協議会（西条市）
6. 2018.1.25 えひめ自助・共助推進大会パネルディスカッションコーディネータ
7. 2018.3.14 「再生可能エネルギーの総合的な活用推進について」，愛媛大学 COC 公開講座 in 八幡浜市
8. 重信川流域学識者会議委員
9. 脇川流域学識者会議委員
10. ダム管理フォローアップ委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
11. 堤防決壊に係る調査委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
12. 四国の港湾における地震・津波対策検討会議委員
13. 山鳥坂ダム・鹿野川ダム環境検討委員会委員
14. 山鳥坂ダム工事事務所ダム事業費等監理委員会委員
15. リバーカウンセラー（国土交通省四国地方整備局）
16. 河川・溪流環境アドバイザー（国土交通省四国地方整備局）
17. 四国地方整備局総合評価委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
18. 四国地方整備局総合評価地域小委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
19. 愛媛県地方港湾審議会：会長（愛媛県）
20. 愛媛県防災会議委員
21. 愛媛県建設工事総合評価審査委員（愛媛県）
22. 愛媛県廃棄物処理施設設置審査委員会委員
23. 松山市総合評価審査員（松山市）
24. 松山市公営企業局総合評価審査員（松山市）
25. 「環境モデル都市まつやま」推進協議会運営委員会：委員長（松山市）
26. 八幡浜市港湾審議会委員

論文・研究発表：

1. Deepak Bikram THAPA CHHETRI and Ryo MORIWAKI, MONITORING URBAN GROWTH, LAND USE AND LAND OVER USING REMOTE SENSING AND GIS TECHNIQUES: A CASE STUDY OF BHAKTAPUR DISTRICT, NEPAL, Engineering Science and Technology: An International Journal (ESTIJ) Vol.7, No.3, 32-39, 2017

2. 森脇 亮・今村 実・全 邦釤・藤森 祥文, 深層学習を用いた風速の短時間予測の試み, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.74, No.4, I\_229-I\_234, 2018.
3. 井上咲, 重松和恵, 藤森祥文, 森脇亮:気象衛星ひまわり 8 号の観測値を用いた地上全天日射量の推定:平成 29 年度土木学会四国支部第 23 回技術研究発表:愛媛大学:2017.05.20
4. 矢野凌佑, Deepak Bikram Thapa Chhetri, Thaddeus M. CARVAJAL, Herlin Verina, 藤森祥文, 渡辺幸三, 森脇亮:気象モデル WRF を用いたメトロマニラにおける気象シミュレーション:平成 29 年度土木学会四国支部第 23 回技術研究発表:愛媛大学:2017.05.20
5. 原田辰也, 手嶋唯, 藤森祥文, 森脇亮:中国四国地方と瀬戸内海の夏季静穏日における GPS 可降水量の日変化:平成 29 年度土木学会四国支部第 23 回技術研究発表:愛媛大学:2017.05.20
6. Deepak Bikram Thapa Chhetri, Yoshifumi Fujimori , Ryo Moriwaki:Temporal and spatial variation of urban cloud in various cities in Japan:平成 29 年度土木学会四国支部第 23 回技術研究発表:愛媛大学:2017.05.20
7. Heraclito Rodrigues Comia, Herlin Verina, 藤森祥文, 森脇亮:Investigation of Sea Breeze Pattern and Mechanism over Ehime Region by Using Numerical Model WRF:平成 29 年度土木学会四国支部第 23 回技術研究発表:愛媛大学:2017.05.20
8. 山下祐一, 全邦釤, 森脇亮, 吉井稔雄, 矢田部龍一, 社会基盤 ME 養成講座の改革と展開及び受講者アンケート,平成 29 年度土木学会四国支部第 23 回技術研究発表:愛媛大学:2017.05.20
9. 浅岡佑亮, 全邦釤, 藤森祥文, 森脇亮:GPV の風速成分データを用いた愛媛沿岸域における飛来塩分量の推定:平成 29 年度土木学会四国支部第 23 回技術研究発表:愛媛大学:2017.05.20
10. 今村実, 全邦釤, 藤森祥文, 森脇亮:ディープラーニングによる風速の短期予測方法の高精度化:平成 29 年度土木学会四国支部第 23 回技術研究発表:愛媛大学:2017.05.20

### 【吉井 稔雄】

社会貢献活動 :

1. 交通事故リスク, 交差点運用（信号機運用）について, 大分県警察交通管制センター交通事故・規制関係研修会, 大分, 2017.8.25
2. 愛媛県 都市計画審議会 会長
3. 松山市 都市計画審議会 会長
4. 阪神高速道路株式会社 交通技術委員会 幹事
5. 株式会社 高速道路総合技術研究所 高速道路ネットワークシミュレーションモデルの構築検討委員会 委員
6. 愛媛県 愛媛県自転車安全利用研究協議会 構成員
7. 松山市都市再生協議会 委員
8. 愛媛県公共事業評価委員会 委員
9. 松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会 副会長
10. 愛媛県道路交通環境安全推進アドバイザーアクション会議 委員
11. 新居浜市立地適正化計画策定委員会 委員長
12. 愛媛県高規格道路等利活用検討会 委員長
13. 松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会 委員

14. 松山空港アクセス向上検討会 委員/幹事長
15. 愛媛県開発審査会 会長
16. 愛媛県渋滞対策協議会 議員
17. 四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ, 委員

論文・研究発表 :

1. 白柳洋俊, 吉井稔雄, 兵頭知, 渡辺駿一: サグ認知における注意の解放効果, 交通工学論文集 3(2), pp. 109-115, 2017.
2. 坪田隆宏, 吉井稔雄, 藤井浩史, 河野侑奈: Bluetooth スキヤナの指向性と設置位置を考慮した MAC アドレスの検知確率推定モデル, 交通工学論文集 3(2), pp. 37-43, 2017.
3. Takahiro Tsubota and Toshio Yoshii: An Analysis of the Detection Probability of MAC Address from a Moving Bluetooth Device, Transportation Research Procedia 21C, pp. 251-256, 2017.
4. Satoshi Hyodo, Tohio Yoshii, Matstushita Satoshi and Shirayanagi Hirotoshi: An analysis of the impact of driving time on the driver's behavior using probe car data, Transportation Research Procedia, Volume 21, pp.169–179, 2017.
5. Takahiro Tsubota and Toshio Yoshii: An Analysis of the Detection Probability of MAC Address from a Moving Bluetooth Device, Transportation Research Procedia, Volume 21, pp.251-256, 2017.
6. Audinda Virsa Leinia, Takahiro Tsubota, Toshio Yoshii: Investigation of the Effects of Traffic Safety and In-vehicle Criminality on Commuter's Mode Choice Behaviour, Internet Journal of Society for Social Management Systems, Vol. 11 Issue 1, pp.136-145, 2017.12
7. 坪田 隆宏, 吉井 稔雄, 原田 日郎, 神野 裕昭:一般道路における路線 QV 式を用いた速度推定モデル, 交通工学論文集 (特集号 A) 4 卷 1 号, pp.216-222, 2018.2

## 【二神 透】

社会貢献活動 :

1. 2017.7. 22 :「平成 29 年度消防学校地域防災リーダー養成講座」, 愛媛県消防学校 (40 名)
2. 2017.8.2 :「主任・主幹保育教諭研修会」, 松山市公私立保育園・認定こども園, 松山市保健所消防合同庁舎 (50 名)
3. 2017.8. 12 :「平成 29 年度消防学校地域防災リーダー養成講座」, 愛媛県消防学校 (40 名)
4. 2017.8. 26 :「平成 29 年度消防学校地域防災リーダー養成講座」, 愛媛県消防学校 (40 名)
5. 2017.8.28 :「愛南町立一本松小学校 5 年生防災学習会」, 愛南町一本松小学校 (40 名)
6. 2017.9. 23 :「平成 29 年度消防学校地域防災リーダー養成講座」, 愛媛県消防学校 (40 名)
7. 2017.10.4 :「宇摩経済研究会 10 月例会講師」, 四国中央市ホテルグランフォーレ, (60 名)
8. 2017.10.5 :「平成 29 年度防災教育実践モデル地域研究事業 久万小学校フリー参観日講師」, 久万小学校, (100 名)

9. 2017.10.18 :「宇和経済研究会 10月例会講師」, 宇和島第一ホテル, (60名)
10. 2017.11.14 :「第 50 回（平成 29 年度）専科教育「警防科」講義」, 愛媛県消防学校 (40 名)
11. 2017.11.17 :「第 9 回中国四国男女共同参画シンポジウム」, 広島大学学士会館レセプションホール (60 名)
12. 2017.11.20 :「県立学校職員を対象とする防災士養成講座講師」, エスポワール愛媛文教会会館 (200 名)
13. 2017.12.16 :「平成 29 年度消防学校地域防災リーダー養成講座（えひめ防災インストラクター養成コース）講師」, 愛媛県消防学校 (40 名)
14. 2017.12.17 :「平成 29 年度消防学校地域防災リーダー養成講座（えひめ防災インストラクター養成コース）講師」, 愛媛県消防学校 (40 名)
15. 2017.12.10 :「平成 29 年度愛南町防災フォーラム」, 愛南町御荘文化センター (300 名)
16. 2018.1.20 :「平成 29 年度災害ボランティア養成講座」, 松山市総合福祉センター (40 名)
17. 2018.1.21 :「平成 29 年度消防学校地域防災リーダー養成講座（えひめ防災インストラクター養成コース）講師」, 愛媛県消防学校 (40 名)
18. 松山市防災会議委員
19. 西予市災害対策マネジメントしえ業務委託事業者審査委員
20. 愛媛県災害時避難支援アプリ提供業務うの落札者決定基準に対する意見の徴収について
21. 愛媛県学校防災教育推進委員会委員
22. 国土交通省四国地方整備局, 東石井・天山地区電線共同溝 PFI 事業有識者等員会委員
23. 国土交通省四国地方整備局, 平成 29 年度災害に強いまちづくり検討会委員
24. 愛媛県国土利用計画審議会 委員：愛媛県
25. 河川整備計画専門委員会 委員：愛媛県
26. 学校防災アドバイザー：愛媛県
27. 番組審議会委員：あいテレビ

論文・研究発表：

1. Toru Futagami, Tsuyoshi Hatori, and Netra P. Bhandary : An Analytical Study on Intentions of Disaster Prevention Expert Candidates, JDR Vol.12 No.4 pp. 748-754, 10.20965/jdr.2017.p0748(2017) 【査読有り】
2. 鳥越昭彦, 二神透, 手代木純, 森口俊宏, 菅原のえみ. 市街地火災におけるみどりの防火効果の検証手法の検討. ランドスケープ研究増刊 技術報告集. 2017, vol. 8, no. 9. : 10.20965/jdr.2017.p0748(2017) 【査読有り】

### 【バンダリ ネトラ プラカシュ】

社会貢献活動：

1. 2018 年 3 月 10 日 :「Soil Mechanics, GIS, and Chemical Treatment Approach to Landslide Disaster Risk Reduction」、Hasanuddin 大学工学部、インドネシア国・Makassar 市・Hasanuddin 大学、約 30 名

2. 2017年11月19日：「ドローンを利用した災害時避難支援」、東温市、東温市立西谷小学校、約70名
3. 2017年11月6日：「Urbanization and Traffic Management in Kathmandu Valley」、東京大学工学部交通工学研究室、東京大学工学部13番講義室、大学院生16名
4. 2017年10月21日：「ネパール震災について」、JICA四国愛媛デスク、松山総合コミュニティセンター・大会議室、約40名
5. 2017年10月16日：「Natural Disasters —Some Recent Events and Our Disaster Awareness—」、宇和島東高等学校、宇和島市、高校2年生40名
6. 2017年7月17日：「Natural Disasters and Management Issues in Nepal —Emphasizing Transdisciplinary Approach—」、Taiwan National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR), Taipei, About 60
7. 2017年4月28日：「Ground-Building Frequency Resonance Effect on Shaking in Kathmandu Valley during the 2015 Gorkha Earthquake」、トリブバン大学 Institute of Engineering Pulchowk Campus、ネパール国・カトマンズ市、大学院生・教員約40名
8. 2018年2月27日～28日 筑波大学大学院生命環境科学研究科非常勤講師
9. 2018年1月～現在、ネパール地盤工学会、会長
10. 2017年6月～現在、地盤工学会、第53回地盤工学会研究発表会委員会委員
11. 2017年4月～現在、国際地盤災害軽減コンソーシアム、プロジェクト連携委員長
12. 2016年4月～現在、地盤工学会四国支部、監事
13. 2014年1月～現在、国際地盤工学会 ATC3、日本国内委員
14. 2013年8月～現在、Himalayan Landslide Society、役員会幹事
15. 2013年1月～現在、国際地盤工学会 ATC10、日本国内委員

論文・研究発表：

1. Futagami T., Hatori T., Bhandary N. P.: An analytical study on intentions of disaster prevention expert candidates; , Journal of Disaster Research, 12, (4) 748 – 754, 2017年08月
2. H. Yamagishi, N. P. Bhandary (editors), GIS Landslide, 2017年05月16日, © Springer Japan KK 2017 (ISBN:9784431543909)
3. Ngadisih, Samodra G., Bhandary N. P., Yatabe R.: Landslide inventory: Challenge for landslide hazard assessment in Indonesia; GIS Landslide, 135 – 159, 2017年05月16日
4. Timilsina M., Bhandary N. P., Dahal R. K., Yatabe R.: Large-scale landslide inventory mapping in lesser Himalaya of Nepal using geographic information system; GIS Landslide, 97 – 112, 2017年05月16日
5. Bhandary N. P.: Natural Disasters and Management Issues in Nepal; ACECC-TC21 International Symposium on Scientific Decision Making Schemes for Disaster Reduction, 2017.4.24, Kathmandu, Nepal

6. Bhandary N. P., Nishimura F., Yatabe R., Nakajima J.: Shear Strength of Expansive Clay Samples Prepared in Aqueous Solutions; Water and Envriionement Technology Conference 2017 (WET2017), 2017. 7. 22–23, Sapporo, Japan
7. Bhandary N. P.: Ground Motion and Its Engineering Implications in Kathmandu Valley during the 2015 Nepal Earthquake (An invited lecture); 15th International Symposium on Geo-disaster Reduction, 2017. 8. 28–30, Shimane and Kyoto, Japan
8. Tiwari R. C., Bhandary N. P., Yatabe R., Ghimire S., Acharya K. K., Dwivedi S. K.: Uncertainty to explore suspected anomaly in the main impact zone of Langtang snow avalanche; 15th International Symposium on Geo-disaster Reduction, 2017. 8. 28–30, Shimane and Kyoto, Japan
9. Bhandary N. P., Yatabe R.: Residual-state Shear Creep Tests in a Modified Ring Shear Machine and Numerical Modeling for Failure Prediction; The 11th Asian Regional Conference of IAEG, 2017. 11. 28–30, Kathmandu, Nepal
10. Bhandary N. P., Tiwari R. C., Yatabe R., Jha S. K., Shrestha N.: FEM-based Stability Analysis of Jure Landslide Slope in Nepal; The 11th Asian Regional Conference of IAEG, 2017. 11. 28–30, Kathmandu, Nepal
11. Nishimura F., Bhandary N. P., Yatabe R., Nakajima J.: Spatial Distribution Characteristics of Major Elements in Water Sources in Kathmandu Valley of Nepal, The 11th Asian Regional Conference of IAEG, 2017. 11. 28–30, Kathmandu, Nepal
12. Tiwari R. C., Bhandary N. P., Yatabe R.: FEM-based slope instability of roadside settlement slopes in Gorkha after 2015 Gorkha, Nepal Earthquake; 平成 29 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会、2017 年 11 月 10 日～11 日、高知市
13. 山地保弘、ネトラ P. バンダリ : 四国地域の主要道路に対する南海地震を想定した地すべり危険度評価法に関する研究、平成 29 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会、2017 年 11 月 10 日～11 日、高知市
14. 渡邊俊樹、ネトラ P. バンダリ : 2016 年熊本地震による土砂崩壊地の土質力学的評価、平成 29 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会、2017 年 11 月 10 日～11 日、高知市
15. 川又祐也、ネトラ P. バンダリ : ネパールカトマンズ盆地における地盤と建物の微動特性から見た地震被害の特徴、平成 29 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会、2017 年 11 月 10 日～11 日、高知市
16. 森皓樹、ネトラ P. バンダリ : 土のコンシステンシー特性から見た膨潤性粘性土の強度特性に及ぼす陽イオン濃度の影響、平成 29 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会、2017 年 11 月 10 日～11 日、高知市
17. バンダリ・ネトラ P. 、花里 利一 : 地盤の常時微動測定から見る 2015 年ネパール地震時カトマンズ盆地内の建物被害 (その 8) 、平成 29 年度日本建築学会学術講演会・建築デザイン発表会、2017 年 8 月 31 日～9 月 3 日、広島市
18. 遠藤洋平、山口謙太郎、花里利一、バンダリ ネトラ プラカシュ : Restoration of seismically-vulnerable historical masonry structures struck by an earthquake No. V:

In-situ nondestructive test on historical masonry in Nepal、平成 29 年度日本建築学会学術講演会・建築デザイン発表会、2017 年 8 月 31 日～9 月 3 日、広島市

19. 山口謙太郎、遠藤洋平、花里利一、バンダリ ネトラ プラカシュ：耐震的に脆弱な文化財組積造建造物の被災後の保存修復法（その 4）ネパールの歴史的建造物を構成する煉瓦の圧縮実験、平成 29 年度日本建築学会学術講演会・建築デザイン発表会、2017 年 8 月 31 日～9 月 3 日、広島市
20. 森皓樹、ネトラ P. バンダリ：直接一面せん断試験機を用いた粘性土の残留状態におけるせん断クリープ破壊メカニズムに関する検討、平成 29 年度土木学会四国支部第 23 回技術研究発表会、2017 年 5 月 20 日～21 日、松山市

### 【相引 真幸】

社会貢献活動：

1. Japanese Experience in Therapeutic Hypothermia for Post Cardiac Arrest Patients : Mayuki Aibiki : Kaohsiung, Taiwan : Special Lecture at 1st International Hypothermia Forum Kaohsiung University : Special lecture
2. Target Temperature Management (TTM) for Post-Arrest Patients- Protocol, Cooling Methods and Controversies- : Mayuki Aibiki : Manila, Philippines : 2017 Congress of Philippines Society of Emergency Medicine : Symposium
3. Hypothermia Therapy for Post Cardiac Arrest: What is Best Practice for EM Patients?-Japanese Experience- : Mayuki Aibiki : Hanoi : 2017 International Conference of Emergency Medicine : Symposium
4. Target Temperature Management (TTM) for Post-Arrest Patients after 2015 ILCOR CoSTR-Cooling Methods, Controversies and Protocol- : Mayuki Aibiki : Hue, Vietnam : 2017 Workshop of Vietnam Emergency Medicine Society : Special Lecture

論文・研究発表：

1. Moore HB, Winfield RD, Aibiki M, Neal MD. "Is Coagulopathy an Appropriate Therapeutic Target During Critical Illness Such as Trauma or Sepsis?", Shock, 48: 159-167, 2017.
2. Kawasaki S, Abe N, Ohtake F, Islam A, Choudhury ME, Utsunomiya R, Kikuchi S, Nishihara T, Kuwabara J, Yano H, Watanabe Y, Aibiki M, Yorozuya T, Tanaka J. Effects of hypnotic bromovalerylurea on microglial BV2 cells. J Pharmacol Sci. 134: 116-123, 2017
3. Matsumoto H, Annen S, Umakoshi K, Takeba J, Kikuchi S, Nakabayashi Y, Moriyama N, Ohshita M, Aibiki M. Sudden cerebral depression detected by bispectral index monitoring in cryptococcal meningitis with elevated near-fatal cerebrospinal fluid pressure. Acute Med Surg. 4: 338-340, 2017.
4. Takeba J, Umakoshi K, Kikuchi S, Matsumoto H, Annen S, Moriyama N, Nakabayashi Y, Sato N, Aibiki M. Accuracy of screw fixation using the O-arm® and StealthStation®

navigation system for unstable pelvic ring fractures. Eur J Orthop Surg Traumatol. doi: 10.1007/s00590-017-2075-9. [Epub ahead of print], 2017.

## 【木村 映善】

社会貢献活動 :

1. 第 21 回日本医療情報学春季学術大会 プログラム委員 : 日本医療情報学会
2. 第 37 回医療情報学連合大会 実行委員・査読 : 日本医療情報学会
3. 鈴鹿医療科学大学非常勤講師 : 鈴鹿医療科学大学
4. CISA 医療統計情報プラットフォーム 理事
5. 一般社団法人 SDM コンソーシアム 理事

論文・研究発表 :

1. 蒲生 祥子, 岡田 久仁子, 木村 映善, 石原 謙:地域 BWA を利用した構内音声網構築に向けた音声品質評価:医療情報学:37(Suppl) :1081-4:2017
2. 栗原 幸男, 石田 博, 横部 公一, 木村 映善, 島井 健一郎, 田中 武志:患者プロファイル情報管理の課題と改善策:医療情報学:37(3):125-33: 2017
3. 栗原 幸男, 石田 博, 木村 映善, 近藤 博史, 島井 健一郎, 田中 武志:実態調査に基づく患者プロファイル情報の実用的な標準規格の検討:医療情報学:37(Suppl):462-5: 2017
4. 木村 映善, 藤村 明子, 美馬 正司, 菊池 浩明, 千田 浩司, 佐久間 淳:パーソナルデータの利活用のための情報処理技術の方向性について:医療情報学:37(Suppl): 210-1:2017
5. 木村 映善, 蒲生 祥子, 石原 謙:分散意味表現を利用した UMLS の概念と日本語の医学用語間のマッピングの試み:医療情報学 37(Suppl):1181-5:2017
6. 木村 映善, 濱田 浩気, 諸橋 玄武, 千田 浩司, 岡本 和也, 真鍋 史郎:分散医療情報分析基盤の秘密計算適用可能性の検証: 医療情報学:37(Suppl):518-21:2017
7. 木村 映善, 山本 景一: CDISC/ODM の概念マッピングによる EDC と EMR 連携の試み: 医療情報学:37(Suppl): 159-63:2017
8. 木村 映善:最新のサイバー攻撃の概要および傾向と具体的対策について: 月刊新医療: 66(6):103-6:2017
9. 中井 美穂, 蒲生 祥子, 高田 康徳, 木村 映善, 石原 謙: 電子カルテへの血糖値入力に関する統計的評価:(第 18 回日本医療情報学会看護学術大会論文集) -- (ポスター 安心・安全な看護業務を支援する情報技術と評価):日本医療情報学会看護学術大会論文集 :JAMI-NS: 18:177-80:2017
10. Winter A, Takabayashi K, Jahn F, Kimura E, Engelbrecht R, Haux R: Quality Requirements for Electronic Health Record Systems:A Japanese-German Information Management Perspective:Methods of information in medicine:56(7):e92-e104:2017
11. Murata KT, Pavarangkoon P, Higuchi A, Toyoshima K, Yamamoto K, Muranaga K, : A web-based real-time and full-resolution data visualization for Himawari-8 satellite sensed images.:Earth Science Informatics. :1-21:2017
12. Kimura E, Hasegawa S, Chida K, Gamo S, Irino S, Ishida H,:Evaluation of the Anonymity

and Utility of De-Identified Clinical Data Based on Japanese Anonymization Criteria. Stud Health Technol Inform:245:1303:2017

13. 入野 了士, 木村 映善, 石田 博, 栗原 幸男: 健診データの利活用と匿名化に対する健診機関の認識についての調査研究. 第 21 回日本医療情報学会春季学術大会: 2017

### 【加藤 匡宏】

論文・研究発表 :

1. Isao Saito, Koutatsu Maruyama, Eri Eguchi, Tadahiro Kato, Ryoichi Kawamura, Yasunori Takata, Hiroshi Onuma, Haruhiko Osawa, Takeshi Tanigawa : Low Heart Rate Variability and Sympathetic Dominance Modifies the Association Between Insulin Resistance and Metabolic Syndrome — The Toon Health Study — : Circ J 2017; 81: 1447 – 1453
2. Yoko TANAKA, Kanako YAMAUCHI, Tadahiro KATO : Cross-Sectional Survey of Dietary Habits of the Elderly Population with Diabetes Mellitus : MATSUYAMA SHINONOME JR.COL.Vol.48,2017

### 【氏家 勲】

社会貢献活動 :

1. 入札監視委員会委員 : 伊方町
2. 入札監視委員会委員 : 宇和島市
3. コンクリート委員会常任委員 : 土木学会
4. コンクリート委員会規準関連小委員会委員 : 土木学会
5. 全国鉄骨評価機構 : 性能評価業務評価員
6. 総合評価審査員 : 松山市
7. 日本コンクリート工学会四国支部 : 幹事
8. 四国地方整備局総合評価委員会委員 : 国土交通省
9. 建設工事総合評価審査委員 : 愛媛県
10. 橋梁長寿命化修繕計画評価員 : 愛媛県
11. 愛媛県生コンクリート品質管理監査会議 : 議長 : 愛媛県生コンクリート工業組合
12. 四国地方ダム等管理フォローアップ委員会 : 委員 : 国土交通省
13. ダム総合点検専門家 : 国土交通省四国地方整備局
14. 建設審議会委員 : 愛媛県
15. 四国地方整備局総合評価地域小委員会 : 委員 : 国土交通省
16. 平成 29 年 6 月 日本コンクリート工学会 功労賞

論文・研究発表 :

1. 初期養生がフライアッシュコンクリート中の腐食因子の浸入と鉄筋腐食抵抗性に与える影響:河合慶有, 氏家 勲:材料 第 66 卷(第 8 号) 608-614 2017 年 8 月
2. 銅・マンガンスラグ細骨材およびフライアッシュを用いたコンクリートの乾燥収縮ひび割れ抵

抗性:河合慶有, 氏家 熊, 水越睦視:材料 第 66 卷(第 8 号) 615-620 2017 年 8 月

3. Study on detection method of defects in covered concrete using electrical resistivity measurement:河合慶有, 氏家 熊, 奥野宙:Proceedings of the Ninth International Structural Engineering and Construction Conference 2017 年 7 月
4. 材料分離に起因する不均質さが水平鉄筋の腐食性状に与える影響:河合慶有, 氏家 熊:コンクリート工学年次論文集 Vol.39(No.1) 697-702 2017 年 7 月
5. Influence of the type of dry yeast on precipitation rate of calcium carbonate in bio-based repair materials:P.Y. プテリ, 氏家 熊, 河合慶有:Proceedings of 2nd International Conference on Bio-based Building Materials 133-139 2017 年 6 月
6. 製紙スラッジ焼却灰を利用した低炭素コンクリートの性能評価:木下尚樹, 氏家 熊, 河合慶有, 川口隆, 安原英明, 長江俊勝:Journal of MMIJ Vol.133(No.6) 132-139 2017 年 6 月
7. 粗骨材種類に起因する CI<sup>-</sup>実行拡散係数の変動要因に関する考察:越智訓平, 氏家熊, 河合慶有:土木学会四国支部第 23 回技術研究発表会 2017 年 5 月 20 日
8. 枯草菌の代謝を用いたカプセル中の炭酸カルシウム析出過程の検討:奥野宙, 河合慶有, 氏家熊:土木学会四国支部第 23 回技術研究発表会 2017 年 5 月 20 日
9. FA コンクリートの感想収縮ひび割れ抵抗性に与える骨材種類の影響:久保勇登, 氏家熊, 河合慶有:土木学会四国支部第 23 回技術研究発表会 2017 年 5 月 20 日
10. 異なる温度環境に繰り返し暴露されたコンクリートの透気係数に関する検討:大高下弘樹, 氏家熊:土木学会四国支部第 23 回技術研究発表会 2017 年 5 月 20 日
11. 材料分離の影響を受けた水平鉄筋の腐食性状に及ぼす酸素透過の影響:河合慶有, 仲井一平:土木学会四国支部第 23 回技術研究発表会 2017 年 5 月 20 日

### 【小林 範之】

社会貢献活動 :

1. 2017.11.18 :「決壊のメカニズム」: 東温市下林下・上村防災ワークショップ : 愛媛県 : 東温市立 挙志小学校体育官 : 100 名
2. 2017.11.19 :「決壊のメカニズム」: 奈良下組地区ふるさとづくりワークショップ (防災型) : 愛媛県 : 奈良下組集会所 : 47 名
3. 客員研究員 : (財)日本水土総合研究所
4. 建設工事総合評価審査委員会 : (委員) : 愛媛県
5. 愛媛県農業水利施設保全対策検討会 (アドバイザー) : 愛媛県
6. 東温市下林下・上村ワークショップ (防災型) 実行委員会 (アドバイザー) : 愛媛県
7. 史跡松山城整備検討委員会 : (委員) : 松山市
8. 宇和島城保存整備検討委員会 : (委員) : 宇和島市
9. 中国四国農政局管内国營造成干拓堤防技術検討委員会 : 農林水産省
10. 通谷調整池技術検討委員会 : 農林水産省
11. 長期供用ダム研究小委員会(専門委員) : 農業農村工学会
12. 農業農村工学会材料施工部会 : (幹事) : 農業農村工学会

13. 日本雨水資源化システム学会：(理事)：日本雨水資源化システム学会
14. 日本雨水資源化システム学会編集委員会：(委員長)：日本雨水資源化システム学会
15. 地盤工学ジャーナル編集委員会：(副委員)：地盤工学会

論文・研究発表：

1. Izumi, T., Kobayashi, N. (2017): Runoff analysis model with a deep learning., Proceedings of the 37th IAHR World Congress, pp.3939-3945., August 13 - 18, 2017
2. 小林範之, 長谷拓哉：地下水位変動による卓越振動数と位相速度への影響について：農業農村工学会中国四国支部：徳島市：2017年10月26日

### 【榎原 正幸】

社会貢献活動：

1. 2017.5.7：茶摘みの会：愛媛大学 社会共創学部：東温市上林：10名
2. 2017.10.12：高大連にもとづく出張講義：愛媛県立西条高等学校：50名
3. 2017.11.20：[ 社会共創学—地域社会の未来を共に創る人材をめざそう ]：大学出張講義：愛媛県立今治北高等学校：60名
4. 松山市環境審議会：松山市環境審議会委員：松山市環境部環境モデル都市推進課
5. 松山市土壤汚染対策専門委員会：松山市土壤汚染対策専門委員：松山市環境部環境指導課
6. 松山市文化財保護審議会：松山市文化財保護審議会委員：松山市教育委員会
7. 四国西予ジオミュージアム（仮称）展示内容検討委員会：四国西予ジオミュージアム（仮称）展示内容検討委員：西予市
8. 西予市ジオパーク拠点施設建設検討委員会：西予市ジオパーク拠点施設建設検討委員会委員：西予市
9. 四国西予ジオブランド認定審査会審査員：四国西予ジオパーク推進協議会：西予市
10. 西予市文化的景観調査委員会：西予市文化的景観調査委員会委員：西予市教育委員会
11. 西条市アカデミックアドバイザー委員会：西条市アカデミックアドバイザー：西条市
12. 日本地質学会第124年学術大会実行委員会：日本地質学会第124年学術大会実行委員長：日本地質学会
13. 独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員
14. 独立行政法人日本学術振興会：卓越研究員候補者選考委員会書面審査員
15. 九州大学国際交流総合企画会議：九州大学国際交流総合企画会議委員：国立大学法人九州大学
16. 公益財団法人 山田科学振興財団：一次審査選考委員
17. 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所：特別客員教員
18. アジア・アフリカ交流センター長：国立大学法人 愛媛大学
19. 防災情報研究センター教授：国立大学法人 愛媛大学 (H28年4月1日～現在に至る)
20. 地域協働センター西条教授：国立大学法人 愛媛大学 (H28年7月1日～現在に至る)
21. 2017.8.19:「優秀ポスター賞」(共著; Febryanto Masulili・榎原正幸) : I C T A R (International

Conference on Transdisciplinary Approach Research)

22. 2017.12.16 : 第 17 回日本地質学会四国支部総会・講演会「優秀講演賞」(共著 ; Hendra Prasetia, 榊原正幸) : 日本地質学会四国支部
23. 2017.12.16 : 第 17 回日本地質学会四国支部総会・講演会「優秀講演賞」(共著 ; Basri, 榊原正幸) : 日本地質学会四国支部

論文・研究発表 :

1. 岡崎健治・山崎秀策・倉橋稔幸・榎原正幸,人口水路を用いた植物によるヒ素を含む水の浄化技術.地盤工学会誌,Vol.65 No.5 Ser.No.712,2017 05.
2. Takebe, H., Tomita, S., Saitoh, A., Kawahara, M., Sueoka, Y. and Sakakibara, M Effect of Crystallization on Microstructure and Elution Properties In Copper Slag. Journal of Sustainable Metallurgy,Doi 10.1007/S40831-017-0130-8,2017 05.
3. Hasriwiani Habo Abbas, Masayuki Sakakibara, Koichiro Sera and Lukmanul Hakim Arma ,Mercury Exposure and Health Problems in Urban Artisanal Gold Mining (UAGM) in Makassar,South Sulawesi,Indonesia.Geosciences2017,7(3),pp1-15:doi:10:3390/geosciences7030044 ,2017 06.
4. Sato, Y., Goto, S., Teraoka, S., Takagaki, K., Takehara, A., Sakae, S. and Sakakibara, M. Establishment of an Aseptic Culture System and Analysis of the Effective Growth Conditions for Eleocharis acicularis Ramets for Use in Phytoremediation. environments 2017, 4,40:doi:10.3390/environments4020040,2017 06.
5. Basri., Sakakibara, M., Sera, K. and Idham Andri Kurniawan ,Mercury Contamination of Cattle in Artisanal and Small-Scale Gold Mining in Bombana, Southeast Sulawesi, Indonesia. Geosciences2017, 7(4), 133: doi:10.3390/geosciences7040133, 2017 12.
6. Febryanto Masulili and Sakakibara, M. Peperite texture formed by middle Miocene andesitic dyke mingling with granitic fault gouge, northwestern Matsuyama, Japan: a preliminary result.proceeding 第 17 回日本地質学会四国支部総会・講演会 講演要旨集,P.2,2017 12.
7. Basri and Sakakibara, M. Main source of mercury pollution in artisanal and small-scale gold mining, Bombana, Southeast Sulawesi.proceeding 第 17 回日本地質学会四国支部総会・講演会 講演要旨集,P.3, 2017 12.
8. Hendra Prasetia and Sakakibara, M. Impact assessment research on atmospheric Hg contamination by using tree bark analysis of an ASGM area in North Gorontalo Regency, Indonesia. proceeding 第 17 回日本地質学会四国支部総会・講演会 講演要旨集, P.3,2017 12.
9. Hendra Prasetia, Masayuki Sakakibara, Koji Omori, Jamie S. Laird, Koichiro Sera ,Mangifera indica as Bioindicator of Mercury Atmospheric Contamination in an ASGM Area in North Gorontalo Regency, Indonesia. Geosciences 2018,8(1),31;doi:10.3390/geosciences8010031, 2018 01.
10. 榎原正幸・竹原明成・世良耕一郎 カヤツリグサ科ハリイ属マツバイによる放射性 Cs 除染の有

効性 第23回NMCC共同利用研究成果発表会, 2017年5月13日, 盛岡市.

11. Tsutomu Yamaguchi, Masayuki Sakakibara and Mohamad Jahja Reation of handmade net for soil erosion prevention using natural fiber of sugar palm and its significance regional innovation. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia.(ポスター)
12. Febryanto M. and Sakakibara, M. Field observation of peperite-like texture at contact between Middle Miocene andesitic dyke and granitic fault gouge, northwestern Matsuyama, Japan. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia.(ポスター)
13. Nurfitri Abdul Gaful, Masayuki Sakakibara, Koichiro Sera and Yayu Indriati Arifin Toxic element concentrations of human hair in upstream area of Bone River, Gorontalo Province, Indonesia. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia.
14. Kenji Okazaki, Shusaku Yamazaki, Toshiyuki Kurahashi and Masayuki Sakakibara An Artificial Channel Purification Experiment for Arsenic-rich Drainage from the Abandoned Mine by Using Eleocharis acicularis. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia.
15. Yayu Indriati Arifin, Masayuki Sakakibara and Koichiro Sera Total mercury levels in Scalp hairs of Gorontalo Province. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia.
16. Febryanto Masulili and Masayuki Sakakibara Field observation of peperite-like texture at contact between Middle Miocene andesitic dyke and granitic fault gouge, northwestern Matsuyama, Japan. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia. (ポスター)
17. Basri,Masayuki Sakakibara and Ratnawati The stakeholder's position map relating to the mercury pollution reduction in artisanal and small-scale gold mining sector, Bombana, Southeast Sulawesi. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia.(ポスター)
18. Masayuki Sakakibara Co-creation of regional innovation in the highly environmental polluted area by transdisciplinary approach. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia.
19. Idham Andri Kurniawan, Masayuki Sakakibara Indriati Yayu Arfin and Eraku Sunarty Suly The Potential of Gorontalo province as world Geopark. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia.
20. Hendra Prasetia, Masayuki Sakakibara and Koichiro Sera Preliminary study of atmospheric mercury contamination assessment using tree bark in ASGM area, Gorontalo Province, Indonesia. International Conference on Transdisciplinary Approach Research (ICTAR), 2017, 08 19, Gorontalo, Indonesia.(ポスター)

21. Basri and Masayuki Sakakibara The stakeholder's position map relating to the mercury pollution in artisanal and small-scale gold mining sector, Bombana, Southeast Sulawesi, Indonesia 第33回 PIXE シンポジウム, 京都府京都市(京都大学宇治キャンパス), 2017.10.19.
22. Hendra Prasetya, Masayuki Sakakibara and Koichiro Sera Preliminary study of atmospheric mercury contamination assessment using tree bark in ASGM area, Gorontalo Province, Indonesia. 第33回 PIXE シンポジウム, 京都府京都市(京都大学宇治キャンパス), 2017.10.19.
23. Masayuki Sakakibara Environmental Design of Phytotechnology for Sustainable Development in Social-ecological Systems. The 4th International Seminar on Sciences Bogor, Indonesia, 2017.10.19 (招待講演)
24. Febryanto Masulili and Sakakibara, M. Peperite texture formed by middle Miocene andesitic dyke mingling with granitic fault gouge, northwestern Matsuyama, Japan: a preliminary result. 第17回日本地質学会四国支部総会・講演会, 2017.12.16-2017.12.17, 愛媛県松山市(愛媛大学メディアセンター1F メディアホール).
25. Basri and Sakakibara, M. Main source of mercury pollution in artisanal and small-scale gold mining, Bombana, Southeast Sulawesi. 第17回日本地質学会四国支部総会・講演会, 2017.12.16-2017.12.17, 愛媛県松山市(愛媛大学メディアセンター1F メディアホール).
26. Hendra Prasetya and Sakakibara, M. Impact assessment research on atmospheric Hg contamination by using tree bark analysis of an ASGM area in North Gorontalo Regency, Indonesia. 第17回日本地質学会四国支部総会・講演会, 2017.12.16-2017.12.17, 愛媛県松山市(愛媛大学メディアセンター1F メディアホール)
27. Pateda, S. M., Aridin, Y. I. and Kasim, V. N. Study of Health Disorders Related To Mercury On Community Around The Bone River, Gorontalo Province. The 17th annual meeting of the Shikoku branch of the Geological Society of Japan, 2017.12.16-2017.12.17, Matsuyama City.
28. Andi, A., Ramli, M. and Sirajuddin, H. Mine drainage planning PT. Kaltim Prima Coal Sangatta, East Kalimantan, Indonesia in 2009 – 2010. The 17th annual meeting of the Shikoku branch of the Geological Society of Japan, 2017.12.16-2017.12.17, Matsuyama City.

## 【岡村 未対】

社会貢献活動 :

1. 2018.3 : 第4回 RIEG フォーラム, 京都市, 80名
2. 2018.3 : 第二回河川堤防勉強会, 阿南市, 40名
3. 2017.11 : 第一回河川堤防勉強会, 阿南市, 40名
4. 2017.9 : Engineering Symposium : ハサヌディン大学、250名
5. 2017.9 : 平成29年度第40回放送県民大学, 愛媛大学, 20名

6. 2017.3 : 第 21 回土木鋼構造研究シンポジウム, 東京, 450 名
7. 社会資本整備審議会道路分科会 委員 (国土交通省道路局)
8. 堤防研究会 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
9. 堤防研究会耐震 WG 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
10. 河川堤防技術に関する検討会 委員 (国土交通省水管理・国土保全局)
11. 河川堤防の液状化対策の手引き策定委員会 委員長 (土木研究所)
12. 2015 年関東・東北豪雨災害 土木学会・地盤工学会合同調査団 副団長
13. 科学研究費委員会専門委員 (日本学術振興会)
14. 土木学会国際部門/CECAR8 準備委員会 (土木学会) 委員
15. 地盤工学会四国支部支部長(地盤工学会)
16. 道路防災有識者 (国土交通省四国地方整備局)
17. 四国地方整備局事業評価監視委員会 (国土交通省四国地方整備局) 委員
18. 緑川・白川堤防調査委員会 委員 (国土交通省九州地方整備局)
19. 社会インフラのモニタリング技術活用推進検討委員会 (SIP) 河川堤防ワーキンググループ  
(国土交通省大臣官房) 主査
20. リバーカウンセラー (国土交通省四国地方整備局)
21. 松山空港地盤改良修補有識者委員会 (沿岸技術研究センター) 委員
22. The Asian Civil Engineering Coordinating Council, Executive Committee Meeting Member
23. The Asian Civil Engineering Coordinating Council, Chair of Planning Committee Meeting
24. 重信川流域学識者会議 (国土交通省四国地方整備局) 委員
25. 土木技術者資格委員会上級土木技術者資格小委員会 (土木学会) 幹事
26. 土木技術者資格委員会特別上級土木技術者資格小委員会 (土木学会) 幹事
27. 重信川堤防調査委員会 (国土交通省四国地方整備局) 委員
28. 胴川流域学識者会議 (国土交通省四国地方整備局) 委員
29. 土木学会地盤工学委員会堤防小委員会 委員長 (土木学会)
30. (財)FLIP 研究会 顧問
31. Air-Des 工法研究会 顧問
32. ネパールエンジニアリングカレッジ客員教授

#### 論文・研究発表 :

1. Mitsu Okamura (2017): Full scale test on cost effective liquefaction countermeasure for a highway embankment, Journal of Seismological Research, Vol. 40, No. 1,
2. 岡村未対, 小坂佳平(2017) : 高水時の堤防裏法面の滑り領域と破堤危険度評価, 河川技術論文集, 第 23 卷, pp. 393-398.
3. 岡村未対, 平尾優太郎, 前田健一 (2017) : パイピングにより堤体表面に現れる沈下分布の特徴, 河川技術論文集, 第 23 卷, pp. 399-404.
4. Minson Simatupang and Mitsu Okamura (2017): Liquefaction resistance of sand remediated with carbonate precipitation at different degrees of saturation during, Soils and

- foundations. Vol. 57, No. 4, pp. 619-631.
5. 林和幸, 岡村未対, 安原英明, Minson Simatupang (2017) : 炭酸カルシウム結晶析出時の飽和度が改良砂の液状化強度特性に及ぼす影響, 土木学会論文集 C、74巻, 2号
  6. F. Nelson and M. Okamura (2017): Effects of the volumetric strain due to pre-shaking on liquefaction resistance, Proc. 16th World Conference on Earthquake, 16WCEE, paper No. 3073.
  7. Mitsu Okamura, Shota Watanabe & Fred Nelson (2017): Liquefaction resistance of sand with pre-shaking history, Proc 3rd Performance Based Design in Earthquake Geotechnical Engineering, Theme Lecture, CD-ROM.
  8. Minson Simatupang & Mitsu Okamura (2017): Liquefaction resistance of sand improved with calcite precipitation at different degree of saturation, Proc 3rd Performance Based Design in Earthquake Geotechnical Engineering, CD-ROM.
  9. Mitsu Okamura and Asri Nurani Sjafruddin (2017): LEAP-2017 Centrifuge Test at Ehime University, LEAP-UCD-2017 Workshop.
  10. T. Carey, A. Gavras, B. Kutter, M. Okamura, D.S. Kim, K. Ueda, W.Y. Hung, Y.G. Zhou, M. Zeghal, M. Manzari (2018): A new shared miniature cone penetrometer for centrifuge testing, Proc. Int. Conf. on Physical Modelling in Geotechnics, .
  11. Bruce Kutter, Trevor J Carey, Barry Zheng, Andreas Gavras, Nicholas Stone, Mourad Zeghal, Tarek Abdoun, Evangelia Korre, Majid Manzari, Gopal SP Madabhushi, Stuart Haigh, Srikanth SC Madabhushi, Mitsu Okamura, Asri Nurani Sjafruddin, Sandra Escoffier, Dong-Soo Kim, Seong-Nam Kim, Jeong-Gon Ha, Tetsuo Tobita, Hikaru Yatsugi, Kyohei Ueda, Ruben R. Vargas, Wen-Yi Hung, Ting-Wei Liao, Yan-Guo Zhou, Kai Liu (2018): Twenty-Four Centrifuge Tests to Quantify Sensitivity of Lateral Spreading to Dr and PGA, Proc. 5th Geotechnical Earthquake Engineering and Soil Dynamics Conference, .

### 【千代田 憲子】

社会貢献活動 :

1. 2017.11.18 : 羊毛の混色による構成 : 平成 29 年度教員免許状更新講習 : 愛媛大学 : 愛媛大学 : 10 名
2. 2018.2.4 : パブリックデザインと景観のイメージと色彩 : 愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム : 愛媛大学:愛媛大学地域協働センター西条 : 10 名
3. 景観施策アドバイザー : 国土交通省四国地方整備局
4. 胴川橋周辺まちづくり検討委員会:委員:国土交通省四国地方整備局 大洲河川国道事務所
5. 四国八十八景実行委員会選定部会 : 委員 : 四国八十八景実行委員会
6. 愛媛県景観形成アドバイザー : 愛媛県
7. 愛媛県屋外広告物審議会 : 委員 : 愛媛県
8. 松山市景観審議会 : 委員長 : 松山市
9. 松山アーバンデザインセンター非常勤スタッフ : プロジェクトアドバイザー : 松山アーバンデ

### ザインセンター(UDCM)

10. 公益社団法人愛媛県建築士会建築甲子園委員会：委員：公益社団法人愛媛県建築士会
11. 愛媛県文化財保護審議会：委員：愛媛県
12. JA 共済小・中学校交通安全ポスタークール愛媛県審査会：委員長：JA 共済連愛媛
13. 愛媛広告賞：審査員：愛媛広告協会

論文・研究発表：

1. 千代田憲子：デザイン教育における映像メディア表現に関する考察：愛媛大学教育学部紀要：  
第 64 卷、285-296 : 2017.12
2. 千代田憲子：陰翳 XI：状況展 2017：愛媛大学ミュージアム(松山) : h221-w145-d145cm :  
2017.11.24-12.10
3. 千代田憲子：陰翳 XI：状況展 2017：愛媛県美術館特別展示室 2・3(松山) : h221-w168-d21cm :  
2017.12.20-12.27

### 【柳原 頂】

社会貢献活動：

1. 2017.7.10 : 松山アーバンデザインセンターの活動紹介：川西市商工会 : UDCM もぶるテラス
2. 2017. 10.3 : 松山アーバンデザインセンターの活動紹介：石川県建設コンサルタント協会都市  
計画委員会 : UDCM もぶるテラス
3. 2017. 11.2 : 松山アーバンデザインセンターの活動紹介：高大連携松山東高校 SGH 事業 : UDCM  
もぶるテラス
4. 2017. 12.6 : 松山アーバンデザインセンターの活動紹介：社会共創学部開講授業「フィールド  
基礎実習」 : UDCM もぶるテラス
5. 2018. 1.14 : 松山アーバンデザインセンターの活動紹介：全国路面電車サミット 2018 : 子規記  
念博物館
6. 2018. 1.18 : 松山アーバンデザインセンターの活動紹介: 福島県須賀川市議会 : UDCM もぶるテ  
ラス
7. 2018. 3.9 : 松山アーバンデザインセンターの活動紹介: 和歌山大学観光学部永瀬ゼミ : UDCM も  
ぶるテラス
8. 道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会 顧問 (道後温泉誇れるまちづくり推進協議会)
9. 道後温泉観光会館再生整備構想検討委員会 委員 (道後温泉旅館協同組合)
10. 湊町三丁目 C 街区地区市街地再開発事業 一般業務代行者選考委員会 委員 (湊町三丁目 C 街  
区地区市街地再開発準備組合)
11. 平成 29 年 6 月 27 日 : 小澤賞 : 全日本建設技術協会

### 【小野 悠】

社会貢献活動：

1. 2017.8.22 : 「松山アーバンデザインセンターによる公民学連携のまちづくり」, 平成 29 年度中

心市街地まちづくり研究会, 松山

2. 2017.8.30 :「まちづくりの担い手育成プログラムの実践と展開 ～松山アーバンデザインセンターによる公民学連携のまちづくり～」, 情報交流シンポジウム(第 21 回) 「大学が支援する地域再生の現場」, 広島
3. 日本学会議 第 24 期連携会員
4. 松山アーバンデザインセンター 副センター長
5. 第 6 次松山市総合計画（後期基本計画）推進懇話会 委員
6. 銀天街まちなか空間活用実験実行委員会 委員
7. 松山市空家等対策協議会 委員
8. 松山市アーバンデザインスクール運営委員会 委員
9. 2017.5 : 日本都市計画学会 論文奨励賞

論文・研究発表 :

1. 前島彩子, 田村順子, 小野悠, 志摩憲寿 :「SICAP Baobab 団地賃貸長屋の増改築アフリカ都市の公的住宅団地に関する研究—2」, 日本建築学会計画系論文集, 第 82 卷第 741 号, 2017
2. Haruka ONO, Yuka KATAOKA, Tsuyoshi HATORI and Toshiki Kawauchi: The Urban Design School in Matsuyama City: A Case Study of Experiential Learning and Community Collaboration. 14th International Congress of Asian Planning Schools Association, Beijing, 2017.10
3. Haruka ONO, Yuka KATAOKA, Tsuyoshi HATORI and Eiji HATO: Urban Design Center for Public–Private–Academic Collaboration: The Case of Urban Design Center Matsuyama. Proceedings of 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies, p.174, Nagoya, 2017.8
4. 小野悠, 片岡由香, 羽鳥剛史, 羽藤英二 :「松山アーバンデザインセンターによる公民学連携のまちづくり-設立から 3 年間の成果と今後の課題-」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国) , pp.945-946, 2017.8
5. 小野悠 :「アフリカの市街化プロセスに関する実証的研究：ナイロビのインフォーマル市街地における土地所有の管理・建築行為・公共空間の管理に着目して」第 55 回土木計画学研究発表会・講演集, 36-06, 2017.5

## 【尾崎 信】

社会貢献活動 :

1. 2017.6.21 :「東京大学のキャンパス」、東京大学文学部「東京大学探索・埋蔵文化財と文化資源学」、木下直之教授、東京大学法文 1 号館大教室
2. 2017.9.11 :「街のデザインが、街の価値を高める」、第 1 回松山駅周辺土地利用勉強会、松山市、中央公民館
3. 2017.9.13 :「UDCM | 松山アーバンデザインセンター」、APS 推進会議 都市 + デザインフォーラム、(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター、東京丸の内 3×3 ラボフェューチャー、

70名

4. 2017.10.2 :「観光戦略としてのデザインと景観計画」、第1回景観観光モデル創出事業連絡会議、青森県、青森県庁、30名
5. 2017.10.5 :「UDCM」、udc会議、UDCイニシアチブ、パレット柏、80名
6. 2017.10.5 :「パネルディスカッション: UDCとエリアマネジメント」、udc会議、UDCイニシアチブ、パレット柏、80名
7. 2017.12.4 :「松山アーバンデザインセンターと中心市街地のまちづくり」、日本都市計画学会中国四国支部 支部間・支部内研究交流事業、日本都市計画学会中国四国支部、徳島大学、50名
8. 2018.1.23 :「まちを「育てる」ためには」、愛媛大学 COC 公開講座 in 松山市、愛媛大学社会連携推進機構、愛媛大学
9. 2018.1.23 :「パネルディスカッション」、愛媛大学 COC 公開講座 in 松山市、愛媛大学社会連携推進機構、愛媛大学
10. 2018.2.9 :「松山アーバンデザインセンターの取り組み」、ISVセミナー#3、インハウススーパーバイザー協会、富山市民プラザ AVスタジオ、50名
11. 道後温泉観光会館再整備検討委員会 協力委員（道後温泉旅館組合）
12. 東温市市民提案活動支援制度審査委員会 審査委員（東温市）
13. 東温市頑張る中山間地域等支援事業補助金審査委員会 委員（東温市）
14. 土木学会 土木図書館委員会 ドボ博小委員会 委員（土木学会）
15. 芝浦工業大学土木工学科「景観工学」 非常勤講師（芝浦工業大学）
16. 掛川市都市再生協議会 会長（掛川市）
17. 掛川市都市計画審議会 会長（掛川市）
18. 長崎駅周辺エリアデザイン調整会議 委員（長崎県）

論文・研究発表：

1. Shin Osaki : SITE SELECTION CHARACTERISTICS OF SHRINES AFFECTED BY TSUNAMIS IN THE COASTAL AREAS OF THE SANRIKU REGION : Japan Society of Civil Engineering, Journal of JSCE, Vol.5, No.1, pp.226-245, 2017.5

### 【片岡 由香】

社会貢献活動：

1. 平成29年11月15日（水）13：30～16：00：みんなでつくる！あなたのまちの景観：えひめ景観シンポジウム：愛媛県：松山市立子規記念博物館：500名
2. 平成30年1月5日（金）15：00～17：00：松山アーバンデザインセンターの取り組みについて：近江八幡市：近江八幡市旧吉田邸：12名
3. 平成30年3月14日（水）13：30～16：30：みんなの集まる場をデザインする～大島交流拠点とアーバンデザインセンターの取り組みを事例に～：愛媛大学 COC 公開講座 in 八幡浜市：愛媛大学：八幡浜市役所：30名
4. 大島交流拠点施設（仮称）整備事業に係るデザイン設計競技審査委員会：審査委員長

5. 愛媛県国土利用計画審議会：委員
6. 愛媛県公共事業評価委員会：委員
7. 愛媛県都市計画審議会：委員
8. 松山市都市計画審議会：委員
9. 愛媛県固定資産評価審議会：委員
10. 愛媛県河川整備計画専門委員会：委員
11. 松山アーバンデザインスクール運営委員会：委員

論文・研究発表：

1. 片岡由香, 尾形愛実, 羽鳥剛史：愛媛大学生の街中サードプレイスに関する実態調査：愛媛大学：愛媛大学社会共創学部紀要：第1巻・第2号：平成29年9月
2. 片岡由香：道の駅の組織マネジメントについて：次世代地域モビリティ研究会（Ngrm 研究会（Next generation regional mobility）：東京大学：平成29年12月18日

#### 【矢田部 龍一】

社会貢献活動：

1. H29.4.27 巨大災害の時代を迎えて:松山市議会議員:松山市役所別館:12名
2. H29.5.21 巨大自然災害の時代に備える:日本防災士会愛媛支部:アイテムえひめ:100名
3. H29.5.24 大規模自然災害に備える・建設業界の役割・団組建友会平成29年度安全大会:サンピアシリーズ:200名
4. H29.6.2 南海トラフ巨大地震に備えよう・企業としての備えと災害時の初動対応:平成29年度愛亀企業グループ安全衛生大会:ウェルピア伊予:200名
5. H29.6.15:事業拡大への大学の活用:NPO 日環工総会特別講演:メトロポリタンエドモント:80名
6. H29.6.30 熊本地震の被害と復興の状況:防災情報研究センター
7. H29.7.1 一度の人生を生き切る:第一コンサルタンツ特別講演:100名
8. H29.8.6 巨大災害に備える戦略的防災教育:教員夏季セミナー:国立青少年総合センター:100名
9. H29.8.31 南海トラフ巨大地震のメカニズムと被害概要:電気設備学会:愛媛大学南加記念ホール
10. H29.9.3 巨大自然災害に備える:宮内自主防災会防災講演会:八幡浜市宮内公民館:150名
11. H29.9.15 巨大自然災害に備えるのは我々の努め:忠恕の会第24回懇話会、愛媛大学農学部11番教室、30名
12. H29.9.27 自他の命を守る防災知識と技能:大生院中学防災講演会:150名
13. H29.10.23 学校防災教育を核とした地域づくり:今治防災教育推進協議会:今治市総合福祉センター:70名
14. H29.10.23 "なぜ"、今、学校防災教育が必要か?:内子町防災教育推進連絡協議会:内子町役場分庁舎3階会議室:30名
15. H29.11.13 土石流への対応について:松山市防災教育推進連絡協議会:松山市教育研修センター:20名
16. H29.11.14 地盤工学から見た四国の地すべり:平成29年度SSLアンカー協会技術講習会:テクノ

プラザ愛媛テクノホール:100名

17. H29.11.15 南海トラフ巨大地震に備えよう・親から子、そして孫へ:余土地区まちづくり協議会防災講演会:余土地区まちづくり協議会防災講演会:120名
18. H29.11.29 大規模災害の状況とBCP策定の必要性:産業廃棄物処理業におけるBCP計画の策定研修会:一般社団法人えひめ産業廃棄物協会:リジェール松山:50名
19. H29.11.30:学校防災教育がなぜ必要か?:平成29年度宇和島市防災教育推進連絡協議会:宇和島市庁舎2F大会議室:50名
20. H29.12.9:南海トラフ巨大地震に備える-土木技術者の気概-建設マネジメント四国高知研修会:高知市文化プラザかるぽーと:120名
21. H29.1.26:学校防災教育について:平成29年度新居浜市防災教育推進連絡協議会:新居浜市立大生院中学校:80名
22. H29.2.10:ネパールにおける防災への取り組み:国際フォーラム「国際貢献から見える平和への道筋」:広大マーメイドカフェ:80名
23. 2018年度C-BEST国内支援委員:JICA
24. 愛媛県環境審議会副会長:愛媛県
25. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会委員:愛媛県
26. 愛媛県環境影響評価審査会委員:愛媛県
27. 愛媛県環境審議会温泉部会委員:愛媛県
28. 石手川ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会会长
29. 松山市下水道事業経営審議会副会長:松山市
30. 西日本高速道路(株)四国支社入札監視委員会委員:NEXCO四国支社
31. (財)防災研究協会非常勤研究員:防災研究所
32. 松山市都市再生協議会会长
33. 道路防災有識者:国土交通省四国地方整備局
34. 大洲城跡石垣保存修復委員会委員:大洲市
35. NPO法人愛媛県建設技術支援センター理事
36. 一般社団法人四国クリエイト協会非常勤理事
37. 平成30年度松山自動車道地すべり検討会会长:NEXCO四国支社
38. H30四国支社管内 のり面防災技術検討委員会委員長:NEXCO四国支社
39. 一般社団法人建設機械化協会四国支部運営委員会委員
40. NPO法人日本環境土木工業会顧問

論文・研究発表:

1. Ngadisih, Samodra G., Bhandary N. P., Yatabe R.: Landslide inventory: Challenge for landslide hazard assessment in Indonesia; GIS Landslide, 135 - 159, 2017年05月16日
2. Bhandary N. P., Nishimura F., Yatabe R., Nakajima J.: Shear Strength of Expansive Clay Samples Prepared in Aqueous Solutions; Water and Environment Technology Conference 2017 (WET2017), 2017.7.22-23, Sapporo, Japan

3. Tiwari R. C., Bhandary N. P., Yatabe R., Ghimire S., Acharya K. K., Dwivedi S. K.: Uncertainty to explore suspected anomaly in the main impact zone of Langtang snow avalanche; 15th International Symposium on Geo-disaster Reduction, 2017.8.28-30, Shimane and Kyoto, Japan
4. Bhandary N. P., Yatabe R.: Residual-state Shear Creep Tests in a Modified Ring Shear Machine and Numerical Modeling for Failure Prediction; The 11th Asian Regional Conference of IAEG, 2017.11.28-30, Kathmandu, Nepal
5. Bhandary N. P., Tiwari R. C., Yatabe R., Jha S. K., Shrestha N.: FEM-based Stability Analysis of Jure Landslide Slope in Nepal; The 11th Asian Regional Conference of IAEG, 2017.11.28-30, Kathmandu, Nepal
6. Nishimura F., Bhandary N. P., Yatabe R., Nakajima J.: Spatial Distribution Characteristics of Major Elements in Water Sources in Kathmandu Valley of Nepal, The 11th Asian Regional Conference of IAEG, 2017.11.28-30, Kathmandu, Nepal
7. 山本、森脇、吉井、矢田部、全、森:地域防災における四国メンテナンスエキスパート(ME)養成の意義、土木学会四国支部、21世紀の南海地震と防災、第12巻、pp.65-72、2018.1
8. Tiwari R. C., Bhandary N. P., Yatabe R.: FEM-based slope instability of roadside settlement slopes in Gorkha after 2015 Gorkha, Nepal Earthquake; 平成29年度地盤工学会四国支部技術研究発表会、2017年11月10日～11日、高知市

## 【全 邦釘】

社会貢献活動 :

1. 2017.5.20 : インフラメンテナンスのための人材育成と技術開発 : 平成29年度四国支部第23回技術研究発表会フォーラム : 愛媛大学 : 70名
2. 2017.6.1 : 土木×ICTの未来 : 平成28年度会長特別タスクフォース「現場イノベーションプロジェクト」シンポジウム : 土木学会 : 150名
3. 2017.7.20 : 画像解析,機械学習による橋梁損傷検出・評価手法の開発 : 平成29年度四国地方整備局管内 技術・業務研究発表会 : 四国地方整備局 : 100名
4. 2017.11.29 : 産業廃棄物処理業におけるB C P計画の策定について : えひめ産業廃棄物協会B C P研修会 : えひめ産業廃棄物協会 : リジェール松山 : 30名
5. 2017.12.14 : 愛媛県におけるインフラ維持管理に関する取り組み ~地方において考えていること~ : iMec フォーラム 2017 : 京都市 : 80名
6. 2018.1.12 : インフラ維持管理の人材育成と新技術の地域実装 : ME シンポジウム : 地域ニーズに応えるインフラ再生技術者の育成 : 愛媛大学 : 200名
7. 2018.1.26 : 土木・建築分野へのAIの応用と未来像 : JCI中部支部講演会「土木・建築分野の生産性向上技術の現状と将来」 : JCI中部支部 : 名古屋大学 : 100名
8. 2018.1.30 : 構造工学へのAI活用の近い未来像と遠い未来像:構造工学セミナー「人工知能(AI)の構造工学分野での応用可能性を探る」 : 土木学会 : 170名

9. 2018.2.26 : GIS プラットフォーム上での AI を活用したインフラ維持管理 : GIS 学会四国支部 : 四国 GIS シンポジウム : 30 名
10. 構造工学委員会 メンテナンス技術者のための教本開発小委員会 : 委員 : 土木学会
11. 四国におけるインフラ維持管理新技術研究委員会 : 委員長 : JCI 四国支部
12. 路面性状を簡易に把握可能な新技術評価のための舗装 WG : 委員 : 四国地方整備局
13. 複合構造委員会 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会 : 幹事 : 土木学会
14. 四国地域橋梁管理委員会 : 委員 : 四国地方整備局
15. 四国建設業 B C P 等審査会 : 委員 : 四国地方整備局
16. えひめ建設業 B C P 等審査会 : 委員 : 愛媛県
17. 愛媛県建設工事総合評価 : 審査委員 : 愛媛県
18. 応用力学委員会 : 地区幹事 : 土木学会
19. 鋼構造委員会 構造物の長寿命化技術に関する検討小委員会 : 幹事 : 土木学会
20. 2017 年 12 月 : 舗装工学論文奨励賞 : 土木学会

論文・研究発表 :

1. 山本浩司, 森脇亮, 吉井稔雄, 矢田部龍一, 全邦釤, 森伸一郎 : 地域防災における四国メンテナンスエキスパート (ME) 養成の意義 : 21 世紀の南海地震と防災 (第 12 卷) : pp.65-72, 2018.1
2. 全邦釤, 嶋本 ゆり, 大窪 和明, 三輪 知寛, 大賀 水田生 : ディープラーニングおよび Random Forest によるコンクリートのひび割れ自動検出手法 : 土木学会 : 土木学会論文集 F3 : Vol.73. No.2, (in print) : 2017
3. 森脇 亮, 今村 実, 全 邦釤, 藤森 祥文 : 深層学習を用いた風速の短時間予測の試み : 土木学会 : 土木学会論文集 B1 : Vol.73, No.4, (in print) : 2017
4. 全 邦釤, 井後 敦史, 南免羅 裕治, 黒木 航汰, 大窪 和明 : 車載カメラにより撮影された舗装画像からのディープラーニングによるひび割れ率評価 : 土木学会 : 土木学会論文集 : Vol.73, No.3, pp.I\_97-I\_105 : 2017
5. Ashish Shrestha, Ji Dang, Xin Wang, Shogo Matsunaga, and Pang-jo Chun : Seismic Response and Health Monitoring System for Takamatsu Bridge using Smart Devices : 第 20 回性能に基づく橋梁等の耐震設計に関するシンポジウム講演論文集 : Vol. 20 : 2017
6. Pang-jo Chun, Keizo Sakuma, and Kazuaki Okubo : Method for Investigating the Integrity of Widened Narrow RC Bridges and Evaluating Their Safety : American Journal of Civil and Environmental Engineering : Vol.2, No.6, pp.67-74 : 2017
7. 近藤 健一, 佐久間 啓藏, 大窪 和明, 全 邦釤 : 鉄筋腐食と載荷による損傷が RC はりの固有振動数に及ぼす影響と有限要素法によるモデリング手法の提案 : コンクリート工学年次論文集 : Vol.39, No.2, pp.823-828 : 2017
8. Cindy N. N. Karina, Pang-jo Chun, Kazuaki Okubo : Tensile Strength Prediction of Corroded Steel Plates by Using Machine Learning Approach : Steel and Composite Structures : Vol.24, No.5, pp.635-641 : 2017

9. 全 邦釤：橋梁の劣化過程の地域性の解明と地域アセットマネジメント手法の提案：土木計画学講演会：愛媛大学：2017年6月10日

### 【大窪 和明】

社会貢献活動：

1. 埼玉大学 工学部建設工学科：非常勤講師
2. 土木計画学研究委員会，都市間旅客交通研究小委員会：委員兼幹事
3. Assistant Editor for Asian Transport Studies: Eastern Asia Society for Transportation Studies
4. 2017年12月，舗装工学論文奨励賞，土木学会(対象論文：全 邦釤, 嶋本 ゆり, 大窪 和明, 三輪 知寛, 大賀 水田生：ディープラーニングおよびRandom Forestによるコンクリートのひび割れ自動検出手法)

論文・研究発表：

1. 全 邦釤, 嶋本 ゆり, 大窪 和明, 三輪 知寛, 大賀 水田生：ディープラーニングおよびRandom Forestによるコンクリートのひび割れ自動検出手法，土木学会論文集 F3, 73, (2) , 2017年
2. 大窪 和明, 全 邦釤, 浅本 晋吾, 岡崎 慎一郎：地域アセットマネジメントにおける簡易点検手法の適用に関する一考察：第1回 JAAM 研究発表会論文集：Vol. 1, 117 – 122 : 2017年
3. Ashish Shrestha, Ji Dang, Xin Wang, Shogo Matsunaga, Shingo Asamoto, Kazuaki Okubo, and Pang-jo Chun: Bridge Health Monitoring System Based on Smart Devices in Takamatsu Bridge: Proceedings of 2nd JSCE-CICHE Joint Workshop: Vol. 2: 2017
4. Pang-jo Chun, Keizo Sakuma, and Kazuaki Okubo: Method for Investigating the Integrity of Widened Narrow RC Bridges and Evaluating Their Safety: American Journal of Civil and Environmental Engineering: Vol. 2, (6) 67 – 74: 2017
5. 近藤 健一, 佐久間 啓藏, 大窪 和明, 全 邦釤：鉄筋腐食と載荷による損傷がRCはりの固有振動数に及ぼす影響と有限要素法によるモデリング手法の提案：コンクリート工学年次論文集：Vol. 39, (2) 823 – 828:2017年
6. Cindy N. N. Karina, Pang-jo Chun, Kazuaki Okubo: Tensile Strength Prediction of Corroded Steel Plates by Using Machine Learning Approach: Steel and Composite Structures: Vol. 24, (5) 635 – 641: 2017
7. 大窪和明, 全邦釤：橋梁の経年劣化の不確実性に対するロバスト最適補修計画モデル：土木計画学研究・講演集：Vol. 56, CD-ROM, 2017年
8. 伊坂早織, 大窪和明：災害時における緊急支援物資の最適配分モデルの提案と適用：土木計画学研究・講演集：Vol. 56, CD-ROM, 2017年
9. Kazuaki Okubo, Pang-jo Chun, Shingo Asamoto: Characteristics of Bridge Deterioration based on inspection data in Japan: Proceedings of the Eastern Asia Society of Transportation Studies, Vol. 11: 2017

10. Kazuaki Okubo, Toshimori Otazawa: Population Size and Cooperation between Airlines and Railways: Proceedings of the Eastern Asia Society of Transportation Studies: Vol.11: 2017
11. Asif Nawaz Qazi, Kazuaki Okubo, Hisashi Kubota: Use of the Time-Space Network Technique for Modeling Gradual Flooding and Congestion Delays during Short-Notice Bus-Based Evacuations: Journal of Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies: 12 (forthcoming)
12. 大窪和明, 矢ヶ崎美香: ペットボトルの入札における効率的資源配分 : 土木計画学研究・講演集 : Vol. 56, CD-ROM, 2017 年
13. 全邦釘, 大窪和明, 浅本晋吾, 岡崎慎一郎: 橋梁の劣化過程の地域性の 解明と地域アセットマネジメント手法の提案 : 土木計画学研究・講演集 : Vol. 55, CD-ROM, 2017 年
14. 大窪和明, 奥井義昭, 稲見亮汰: 部分係数設計法における自動車荷重への一般化極値モデルの適用と設計値の設定方法 : 第 72 回年次学術講演会講演概要集 : Vol. 72, 2017 年
15. 大窪 和明, 全 邦釘, 浅本 晋吾, 岡崎 慎一郎: 地域アセットマネジメントにおける簡易点検手法の適用に関する一考察 : 第 1 回 JAAM 研究発表会 : 東京 : 2017 年 12 月 19 日
16. 全 邦釘, 嶋本 ゆり, 大窪 和明, 三輪 知寛, 大賀 水田生: ディープラーニングおよび Random Forest によるコンクリートのひび割れ自動検出手法, 第 22 回舗装工学講演会, 2017 年 12 月 7-8 日
17. Kazuaki Okubo, Pang-jo Chun, Haruna Suzuki, A Reliability based Planning Model for Bridge Maintenance Under Different Management Agencies: INFORMS Annual Meeting 2017: Houston, Texas, USA: Oct. 22-25, 2017
18. Kazuaki Okubo: Potential Revenue of Wasted Plastic Bottle Auction in Japan: INFORMS 2017 Annual Meeting 2017 : Houston, Texas, USA:Oct. 22-25, 2017
19. 大窪和明, 全邦釘: 橋梁の経年劣化の不確実性に対するロバスト最適補修計画モデル : 第 56 回土木計画学研究発表会 : 岩手県盛岡市 : 2017 年 11 月 3-5 日
20. 伊坂早織, 大窪和明: 災害時における緊急支援物資の最適配分モデルの提案と適用 : 第 56 回土木計画学研究発表会 : 岩手県盛岡市 : 2017 年 11 月 3-5 日
21. Asif Nawaz Qazi, Kazuaki Okubo, Hisashi Kubota: Use of the Time-Space Network Technique for Modeling Gradual Flooding and Congestion Delays during Short-Notice Bus-Based Evacuations: 12th EASTS International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies: Ho Chi Minh City, Vietnam: Sep. 18-21, 2017.
22. Kazuaki Okubo, Pang-jo Chun, Shingo Asamoto: Characteristics of Bridge Deterioration based on inspection data in Japan: 12th EASTS International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies: Ho Chi Minh City, Vietnam: Sep. 18-21, 2017.
23. Kazuaki Okubo, Toshimori Otazawa: Population Size and Cooperation between Airlines and Railways: 12th EASTS International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies: Ho Chi Minh City, Vietnam: Sep. 18-21, 2017.
24. 大窪和明, 奥井義昭, 稲見亮汰: 部分係数設計法における自動車荷重への一般化極値モデルの適用と設計値の設定方法 : 第 72 回年次学術講演会 : 福岡県福岡市 : 2017 年 9 月 11-13 日

25. Ashish Shrestha, Ji Dang, Xin Wang, Shogo Matsunaga, Shingo Asamoto, Kazuaki Okubo, and Pang-jo Chun: Bridge Health Monitoring System Based on Smart Devices in Takamatsu Bridge: 2nd JSCE-CICHE Joint Workshop: Tokyo:May 18-19, 2017
26. 大窪和明・矢ヶ崎美香, ペットボトルの入札における効率的資源配分: 第 55 回土木計画学研究発表会 : 愛媛県松山市 : 2017 年 6 月 11-12 日
27. 全邦釤, 大窪和明, 浅本晋吾, 岡崎慎一郎: 橋梁の劣化過程の地域性の解明と地域アセットマネジメント手法の提案: 土木計画学研究・講演集: 第 55 回土木計画学研究発表会 : 愛媛県松山市 : 2017 年 6 月 11-12 日

#### 【山本 浩司】

論文・研究発表 :

1. 山本浩司・森脇亮・吉井稔雄・矢田部龍一・全邦釤・森伸一郎: 地域防災における四国メンテナンスエキスパート (ME) 養成の意義, 21 世紀の南海地震と防災 (第 12 卷), pp.65-72, 2018.1

## 5. 管理・運営

### 5.1 運営委員会議事録

#### 5.1.1 平成 29 年度 第 1 回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時 平成 29 年 4 月 18 日（火）

出席者 森脇センター長，吉井副センター長，二神副センター長，ネトラ副センター長，相引委員，榎原委員，松村委員，矢田部委員，稻田社会連携支援部長

#### 議題

##### 審議事項

- 1 防災情報研究センター（アーバンデザイン研究部門）寄附研究部門教員(講師)の採用について  
防災情報研究センター（アーバンデザイン研究部門）寄附研究部門教員(講師)に、東京大学大学院工学系研究科 尾崎 信助教を採用することが了承された。

なお、任期は平成 29 年 6 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までである。

また、今後の手続きは、社会連携機構推進会議の議を経て、平成 29 年 5 月 10 日開催の全学人事委員会で承認を得れば、採用の手続きを行う予定である。

#### 5.1.2 平成 29 年度 第 2 回 防災情報研究センター運営委員会

日 時 平成 29 年 6 月 14 日（水）11：00～11：50

場 所 社会連携推進機構 2 階研修室

出席者 森脇センター長，吉井副センター長，二神副センター長，ネトラ副センター長，矢田部教授，稻田社会連携支援部長

欠席者 相引教授，榎原教授，松村教授

陪席者 小野准教授，塩出副課長，水野，大野

#### 議題

##### 協議事項

- 1 防災情報研究センター特定職員（教員）の採用について

資料 1 に基づき、森脇センター長から「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業の運営のために、山本浩司氏を特定教員（教授）として採用したいとの説明があり、了承された。

- 2 防災情報研究センター兼任教員の推薦について

資料 2 に基づき、森脇センター長から説明（日向先生は、地域防災システム研究部門の充実を図るため、安原先生及び木下先生は、防災・橋梁メンテナンス技術研究部門の充実を図るために。）があり、兼任教員 3 名を推薦することが了承された。

## 報告事項

### 1 アーバンデザイン研究部門の報告について

資料 3 に基づき、小野准教授から平成 28 年度松山アーバンセンターの多岐にわたる活動について報告があった。

また、平成 29 年度の活動についても、資料に基づき報告があった。

### 5.1.3 平成 29 年度 第 3 回 防災情報研究センター運営委員会

日 時 平成 30 年 1 月 16 日（火）14：05～14：53

場 所 社会連携推進機構 3 階 会議室

出席者 森脇センター長、吉井副センター長、二神副センター長、榎原教授、松村教授、矢田部特命教授、稻田社会連携支援部長

欠席者 ネトラ副センター長、相引教授

陪席者 山本教授（特定教員）、塩出、大野

## 議題

### 協議事項

#### 1 防災情報研究センター研究部門「インフラ空間情報基盤研究部門」の設置について

森脇センター長から資料 1 に基づき説明があり、防災情報研究センターの研究部門として、「インフラ空間情報基盤研究部門」を（株）カナン・ジオリサーチからの寄附研究部門として設置することが承認された。

なお、設置に伴う防災情報研究センター規則の一部改正についても承認された。

#### 2 副センター長の任期更新について

森脇センター長から資料 2 に基づき、副センター長として職務付加をお願いしている吉井教授及び二神准教授に平成 31 年 3 月 31 日まで副センター長としての任期を更新したい旨説明があり、承認された。

#### 3 特定職員（教員）の退職について

森脇センター長から資料 3 に基づき説明があり、文部科学省からの受託事業「社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座」で採用した山本教授の平成 30 年 2 月末日での退職について、承認された。

また、アーバンデザイン研究部門の小野准教授が、平成 29 年 12 月 1 日付で豊橋技術科学大学に採用のため退職した旨の報告があり、了承された。

#### 4 特定職員（教員）の採用について

森脇センター長から資料 4 に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

なお、任期は平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までとし、社会連携推進会議の議を経て、全学人事委員会で承認を得れば、採用の手続きを行うこととした。

##### 5 特定職員（教員）の任期更新について

森脇センター長から資料 5 に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

なお、任期は平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までとし、社会連携推進会議の議を経て、全学人事委員会で承認を得れば、任用更新の手続きを行うこととした。

##### 6 兼任教員の任期更新について

森脇センター長から資料 6 に基づき、兼任教員の任期は 2 年間であり、今年度で任期満了となる教員について、もう 2 年間任期を更新したいとの説明があり、承認された。

##### 7 客員教授等の称号付与（新規）について

森脇センター長から資料 7 に基づき、3 名の推薦理由書等の説明があり、称号付与について承認された。

##### 8 客員教授等の称号付与（更新）について

森脇センター長から資料 8 に基づき、平成 29 年度の客員教授 8 名、客員准教授 1 名の活動実績等の説明があり、称号付与について承認された。

##### 9 客員研究員の任期更新について

森脇センター長から資料 9 に基づき、今年度で任期満了となる客員研究員 3 名について、平成 30 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日の 2 年間、任期を更新したいとの説明があり、承認された。

##### 10 平成 29 年度外部評価委員会について

森脇センター長から資料 10 に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

##### 11 平成 30 年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」について

二神副センター長から資料 11 に基づき説明があり、平成 30 年度は土日型 2 回、平日型 2 回の防災士養成講座を松山市消防局の協力の下、実施することが承認された。

##### 12 防災情報研究センター研究部門「アーバンデザイン研究部門」の継続について

森脇センター長から、平成 26 年度から 4 年間設置が認められている寄附研究部門（アーバンデザイン研究部門）の継続について、松山市より申し出があった旨説明があり、審議の結果、来年度も継続することが承認された。

なお、現在来年度予算の市長査定中であり、内示後すみやかに事務手続きをすることとした。

## 報告事項

### 1 平成 29 年度社会基盤メンテナンスエキスパート実施報告

山本教授から資料 12 に基づき、今年度実施した社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座の実施報告があった。

### 5.1.4 平成 29 年度 第 4 回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時 平成 30 年 3 月 5 日（月）

出席者 森脇センター長、吉井副センター長、二神副センター長、ネトラ副センター長、相引委員、榎原委員、松村委員、矢田部委員、稻田社会連携支援部長

## 議題

### 審議事項

#### 1 特定職員（教員）の採用について

(1) 防災情報研究センターに、愛媛県県民環境部防災局危機管理監（3 月 31 日退職予定）の薬師寺 隆彦氏を採用することが了承された。

なお、任期は平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までである。

(2) 防災情報研究センターに、愛媛大学工学部研究員（2 月 28 日まで防災情報研究センター特定教員（教授）の山本浩司氏を採用することが了承された。

なお、任期は平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までである。

(3) 防災情報研究センター（アーバンデザイン研究部門）に、北海道大学観光学高等研究センター学術研員員の四戸 秀和氏を採用することが了承された。

なお、任期は平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までである。

また、今後の手続きは、社会連携機構推進会議の議を経て、平成 30 年 3 月 22 日開催の全学人事委員会で承認を得れば、採用の手続きを行う予定である。

#### 2 客員教授等の称号付与について

国土交通省都市局まちづくり推進課企画専門官の高峯 聰一郎氏に客員教授の称号を付与することが了承された。

また、今後の手続きは、社会連携機構推進会議の議を経て、平成 30 年 3 月 22 日開催の全学人事委員会で承認を得れば、称号付与の手続きを行う予定である。

## 5.2 外部評価委員会議事録

### 5.2.1 平成 29 年度防災情報研究センター外部評価委員会議事録

日時 平成 30 年 3 月 22 日（木）14：00～15：00

場所 愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室

委員出席者：

南海放送(株)メディア本部テレビ局チーフマネージャー兼番組審議会事務局長

白石 享三

(株)芙蓉コンサルタント

須賀 幸一

放送大学愛媛学習センター所長

村上 研二

陪 席 者：

森脇センター長、二神副センター長、ネトラ副センター長、松村教授、矢田部教授

塩出、水野

森脇センター長のあいさつの後、愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要領第 4 条第 1 項に基づき、村上研二放送大学愛媛学習センター長を委員長（議長）に選出した。

審議事項

議題 1. センター活動の概要報告

森脇防災情報研究センター長から資料 3 に基づき、松村部門長から資料 4 に基づき平成 29 年度の活動報告等があった。

議題 2. 受託研究・共同研究に対する概要

森脇防災情報研究センター長等から資料 5 に基づき、受託研究、共同研究 7 件の説明があった。全委員から特段の指摘はなく、防災情報研究センターとして、ふさわしい研究であるとの評価をいただいた。

議題 3. センター活動への助言について

白石委員から、2006 年のこのセンターの立ち上げから、地域住民の自主防災組織の立ち上げの支援、BCP への支援、県内 20 市町における防災啓発活動、現在にいたっては社会基盤のメンテナンス等、地域の防災力の骨格をしっかりと構築している旨賛辞があった。

村上委員から、今回検討した受託・共同研究一覧には兼任教員の一部の研究一覧であり、本センター自身の活動をとらえにくいので、すべて兼任教員の研究について検討した方がいいのではとの助言があり、森脇センター長から、来年度以降の外部評価委員会の資料としてすべての兼任教員の研究一覧についても提出するとの回答があった。また、矢田部部門長からは、毎年 5 月頃に開催している前年度の活動報告会では、すべての兼任教員の研究・地域貢献活動等をセンター報の冊子として配布している旨の説明があった。

須賀委員から、四国5大学の連携ということで、南海トラフ大地震等を想定すると香川大学と徳島大学が共同で連携しているようですし、松山市と高知市というラインも重要になってくると思われるが、四国5大学での連携についてご教授願いたい旨質問があり、森脇センター長から、四国5大学連携防災・減災教育研究協議会を平成26年5月から立ち上げ、すでに協議している。その中で須賀委員がおっしゃられたような香川大学と徳島大学合同で実施している四国防災・危機管理プログラムに愛媛大学も一部参画したり、そういう連携はすでに実施している。新しい動きとしては、大学だけではなくて4県の危機管理に関する行政を含めた4県・5大学の官学連携を今進めている。そういう動きの中で愛媛大学としても愛媛県に対して防災・減災に関する共同研究を発信したり、あるいは高知を含めた4県で、国に対して予算を取りにいくことも検討している。須賀委員がおっしゃられた方向で進んでいるとの説明があった。

最後に森脇センター長から、各委員に対して委員会出席の謝辞が述べられ、外部評価委員会は終了した。

## 6. 規程等

### 6.1 愛媛大学防災情報研究センター規則

平成18年4月1日  
規則第 64号

#### (趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

#### (目的)

第2条 センターは、自然科学と防災技術の融合により自然災害の実態を解明し、防災・減災のための新たな学際分野を創出し、もって地域の人材育成を含めた地域防災の拠点としてアジア及び地域社会に貢献することを目的とする。

#### (研究部門等)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 災害救急医療・ケア研究部門
- (2) 地域防災システム研究部門
- (3) アジア・地域防災情報ネットワーク部門
- (4) アーバンデザイン研究部門
- (5) 防災・橋梁メンテナンス技術研究部門
- (6) インフラ空間情報基盤研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、センターに地域サテライトを置くことができる。

#### (組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 寄附研究部門教員
- (5) 兼任教員
- (6) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 第2条の目的を達成するため、必要に応じて特定領域の学識を有する専任教員を置くことができる。

#### (管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議（以下「社会連携推進会議」という。）において審議する。

#### (運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

#### (緊急対策委員会)

第7条 センターに、緊急の防災対策を検討するために緊急対策委員会を置くことができる。

(センター長)

第8条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第9条 副センター長候補者は、本学の専任教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、副センター長の任期の末日は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(部門長)

第10条 部門長は、当該部門の寄附研究部門教員又は兼任教員のうちから、センター長が委嘱する。

2 部門長の委嘱期間は、センター長が定める。ただし、委嘱期間の末日は、当該部門長を委嘱するセンター長の任期の末日を超えないものとする。

(寄附研究部門教員)

第11条 寄附研究部門教員は、社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

(兼任教員)

第12条 兼任教員は、本学の専任教員のうちからセンター長の推薦により、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第13条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長から指示された具体的な事項を行う。

3 部門長は、当該部門の業務を処理する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

(協力教員)

第14条 センターに、協力教員を置くことができる。

2 協力教員は、センター長があらかじめ定めた期間、センターの活動に参加することができる。

3 協力教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が委嘱する。

(客員教授等)

第15条 センターに、客員教授等を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。

(客員研究員)

第16条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

(事務)

第17条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第18条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成22年10月14日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

#### 附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成26年6月11日から施行する。

#### 附 則

1 この規則は、平成28年8月1日から施行する。

2 この規則施行後、最初に任命される副センター長の任期は、第9条第2項の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。

#### 附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

## 6.2 愛媛大学防災情報研究センター運営委員会規程

〔平成18年4月1日  
規則第 65号〕

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 社会連携支援部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理人を含む。以下同じ）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

### 6.3 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程

平成 18 年 11 月 10 日  
社会連携推進機構管理委員会

#### (趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）における外部評価（以下「評価」という。）の実施に関する基本的事項を定めるものとする。

#### (目的)

第2条 評価は、愛媛大学以外の機関等から申込のあった共同研究及び受託研究が、愛媛大学において受け入れる研究としてふさわしいものであるかについて客観的な立場で検証し、その評価及び改善への助言等を行うことにより、共同研究及び受託研究の業務の適正化を図り、もって、センターの円滑な運営に資するものとする。

#### (評価審査)

第3条 評価に係る審査は、法令、学内諸規則及び社会良識に照らして厳正中立に行わなければならない。

2 評価審査の結果には、共同研究及び受託研究を実施する上での問題点の有無等について、その具体的な判断理由を明示するものとする。

#### (審査機関)

第4条 前条の審査を行うために、センターに愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を置く。

2 外部評価委員会に関する事項は、別に定める。

#### (審査の時期)

第5条 審査は、原則として、年度ごとの定期審査とする。

2 外部評価委員会への審査の要請は、センター長が行う。

#### (審査結果の効力)

第6条 センター長は、外部評価委員会の定期審査による評価及び改善への助言等を十分に尊重し、共同研究及び受託研究の実施にあたらなければならない。

#### (事務)

第7条 センターの外部評価に関する事務は、社会連携支援部社会連携課が所掌する。

#### 附 則

この規程は、平成 18 年 11 月 10 日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

## 6.4 愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要項

平成 18 年 11 月 10 日  
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程第4条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 共同研究及び受託研究のテーマ又は内容が、学術的又は社会貢献としての価値を損なうものでないか。
- (2) 共同研究又は受託研究を実施する者が、社会規範を逸脱したと思われる行為を行っていないか。
- (3) 前各号のほか、愛媛大学（以下「本学」という。）が実施するにふさわしくない事情が認められないか。

(組織)

第3条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる本学外の委員をもって組織する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の学術分野に関連のある有識者 2人
  - (2) 民間機関の有識者 2人
  - (3) その他社会連携推進機構長が必要と認めた者
- 2 前項第2号の委員は、同一の機関から選出することができない。
- 3 第1項の委員は、社会連携推進機構長が推薦し、学長が任命する。
- 4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときは直ちにこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 外部評価委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選とする。

- 2 委員長は、センター長の要請に基づき外部評価委員会を開催し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聞くことができる。

(審査結果の報告)

第7条 委員長は、外部評価委員会における評価の審査結果を、速やかにセンター長に報告しなければならない。

(事務)

第8条 外部評価委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、外部評価委員会の審査に関し必要な事項は、外部評価委員会が定める。

附 則

- 1 この要項は、平成18年11月10日から施行する。
- 2 この要項施行後、最初に任命される第3条第1項各号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。